

【1C1B101】教育原理		幼児教育学科		1年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	小椋 博文						
資格・制限等	幼稚園教諭二種免許・保育士資格必修						
実務家教員	高等学校管理職・10年						
授業方法	講義を中心としますが、ペアワークやグループワークも取り入れながら展開します。また、プレゼンテーションの作成及び発表、レポートの作成等を通じて、知識の習得だけでなく、教育や保育に対する自分の考えの形成を目指します。						
到達目標	知識・理解	教育の理念ならびに教育に関する歴史及び思想、教育に関する社会的、制度的または経営的事項について理解することができる。					
	思考・判断・表現	教育について学んだ様々な内容について、自分の考えをまとめることができる。					
	技能	他者の意見に傾聴し理解するとともに、他者の意見も踏まえて自分の考えや意見を伝えることができる。					
	関心・意欲・態度	教育・保育に対して、関心・意欲を持ち、積極的に学修に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	教育という営みの基本原則などについて理解するとともに、今後学ぶ専門分野への道筋を明らかにすることを目的とし、教育の意義、目的及び児童福祉等との関連性、教育の思想と歴史の変遷、教育の制度、教育の多様な実践、社会教育の現状や生涯学習社会の課題と施策等について理解することを目指します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	定期試験		50	-	-	-	50
	プレゼンテーション		-	10	10	-	20
	課題レポート		-	10	10	-	20
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		50	20	20	10	100	
評価の特記事項	評価の対象となるのは、定期試験、プレゼンテーション、課題レポート、ワークシートです。全授業の3分の1以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションの作成及び発表						
課題に対するフィードバック	ワークシート（ファイル）は評価後返却します。						
テキスト	『【シリーズ知のゆりかご】 いまがわかる教育原理』西本 望 編 みらい(2,310円)ISBN:978-4-86015-450-9						
参考書・教材	『幼稚園教育要領』文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府他、『保育所保育指針』厚生労働省、いずれも平成29年、『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他、『保育所保育指針解説』厚生労働省、いずれも平成30年。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	教育の意義 [課題（予習）] 第1章(P14～P25)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
2	教育の目的 [課題（予習）] 第2章(P26～P37)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
3	教育と児童福祉のつながり [課題（予習）] 第3章(P38～P47)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
4	人間形成と家庭・地域・社会 [課題（予習）] 第4章(P48～P59)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
5	近代教育成立の歴史とさまざまな国の教育思想家たち [課題（予習）] 第5章(P60～P65)、第6章(P72～P83)、第8章(P100～P113)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
6	日本の教育思想と歴史 [課題（予習）] 第7章(P84～P99)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
7	教育制度の基礎 [課題（予習）] 第5章(P65～P68)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
8	諸外国の教育制度 [課題（復習）] プレゼンの作成及び発表準備(2～4h)						
9	教育の方法 [課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
10	諸外国の教育制度 [課題（復習）] 各グループの発表をまとめる(2～4h)						
11	教育の内容/保育・教育実践の基礎理論 [課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
12	教育実践の多様な取り組み [課題（予習）] 第12章(P160～P175)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
13	教育実践の多様な取り組み [課題（復習）] それぞれの教育実践についてポイントをまとめ、レポートを作成する。(2～4h)						
14	社会教育の現状と生涯学習社会の課題と施策 [課題（予習）] 第13章(P176～P189)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
15	定期試験						

時間外での学修	講義の内容理解を深めるために、予習としてテキストを読んでください。また、授業で使用したワークシートを使って復習をしてください。また、レポート作成の際には、図書館の書籍やインターネット等を活用して情報収集してください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	質問等のある人は、オフィスアワーとして授業後A304(A号館3F)で受け付けますので気軽に訪ねてください。

【1C1S102】教職論		幼児教育学科		1年後期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	岡本 英通						
資格・制限等	幼稚園教諭二種免許・保育士資格必修						
実務家教員	小中学校教員4年						
授業方法	講義を中心に、教育現場での実際の事例を用いて、グループディスカッションを行ったり、演習を行ったりする。						
到達目標	知識・理解	保育・教育職に必要なとなる教職の意義や教員の役割・資質能力・職務内容等に関する基礎的な知識、地域との連携及び安全への対応に関する基本的な知識を身につけ、保育・教育職のあり方について理解することができる。					
	思考・判断・表現	知識と理解をもとに保育・教育職の資質や適性について考え判断するとともに、指導や支援にあたって必要となる思考や判断について考え、適切に表現することができる。					
	技能	保育・教育職に必要なとなる基礎的な技能を身につけることができる。					
	関心・意欲・態度	保育・教育職について興味や関心を持ち、保育・教育職に必要なとなる基礎的な知識や技能、思考・判断・表現力を身につけるため、積極的に学修へ取り組むことができる。					
授業内容	子どもを育てる保育・教育職について、教育現場での実際の事例を通して、職務内容や保護者・地域との連携の実態などを学修する。また、保育・教育職の社会的な役割やその専門性について考察する。さらに、学修した内容や考察したことをもとに、グループでより良い保育・教育環境の提案を行う。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		15	10	-	-	25
	グループ発表・レポート		5	5	-	5	15
	授業時間内課題		-	10	10	5	25
	授業時間外課題		5	10	-	10	25
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		25	35	10	30	100	
評価の特記事項	受講態度は学修への取り組み状況、課題の提出状況から総合的に評価する。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	グループディスカッション、グループワーク						
課題に対するフィードバック	授業時間外の課題については、次回以降の授業の始めにコメントする。その際、質疑応答などを行うことでフィードバックする。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 その他の参考図書は、授業内で適宜紹介する。必要な教材は、授業時に配布する。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 本科目に関する授業内容や達成課題、評価方法等について理解する。また、オリエンテーションとして保育・教育職に対するイメージややりがいについてを考える。 〔課題(復習)〕科目に対する自身の目標や意気込み、オリエンテーション内容についてまとめる。(2~4h)						
2	教職の意義と教員の資質 教職の歴史的な変遷や社会的意義、保育・教育職に必要な資質能力について理解する。 〔課題(復習)〕授業内容についてまとめ、保育・教育職とそのほかの職業と比較し、保育・教育職の特徴に関する自分の考えを述べる。(2~4h)						
3	保育・教育職の特性と社会的課題 前回の授業時間外課題をもとに、職業の中での保育・教育職の特性について考える。その特性を踏まえた保育・教育職に関連する社会的な課題についても考える。また、教師としての役割や身分、公教育としてのあり方について理解する。 〔課題(復習)〕授業内容についてまとめ、保育・教育職における社会的課題について解決しようとする試みを調べ、それに対する自分の考えを述べる。(2~4h)						
4	保育・教育職の種類と職階 学校・園における保育・教育者の職の種類と職階について理解する。 〔課題(復習)〕授業内容についてまとめ、自分のキャリアプランを立ててみる。(2~4h)						
5	保育・教育職の職務内容 職務内容や校務・園務分掌についての知識を深め、学校や園における組織としての経営や危機管理や事故対応などについて、実際にあった事例をもとに考える。 〔課題(復習)〕授業内容についてまとめ、実際にあった学校や園での事故を調べ、どうすれば自己を未然に防ぐことができたのかに関する自分の考えを述べる。(2~4h)						
6	子どもの理解と指導・支援 保育・教育職に携わる者として基本となる子ども理解の方法や指導・支援のありかたについて、実際にあった事例をもとに考える。 〔課題(復習)〕授業内容についてまとめ、子どもと関わる際に自分が大切にしたい考えを述べる。(2~4h)						
7	中間のまとめと中間評価の実施【レポート試験】 これまで学んできた基礎的な知識を確認し、保育・教育職に関する自分の考えをまとめることで理解を深める。 〔課題(復習)〕理解が不十分だった学修内容を復習する。(2~4h)						
8	保育・教育者の研修と服務 保育・教育職に携わる者として必要な資質・能力を再確認し、研修の意義や研修の内容、サービスの意味と職務における義務・制限と身分保障について理解する。 〔課題(復習)〕授業内容についてまとめ、自分がまだもてていない保育・教育職に携わる者として必要な資質と既にもっている資質について述べる。(2~4h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
9	幼稚園教員・小中学校教員の特性とあり方 幼稚園教育や義務教育段階の小中学校での教育についてやその特性とあり方について、学習指導要領に基づきながら理解する。 〔課題(復習)〕授業内容についてまとめ、幼稚園教員と小中学校教員の共通点と相違点について述べる。(2~4h)
10	保育・教育者の給与と休暇 保育・教育者の具体的な給与や休暇、福利厚生について理解する。 〔課題(復習)〕授業内容についてまとめ、保育・教育職とそのほかの職業と比較し、その共通点と相違点について述べる。(2~4h)
11	幼稚園・保育所等と小学校等との連携 幼稚園・保育所等と小学校等の連携の必要性や方法、子どもの学ぶ内容を事例や学習指導要領に基づきながら理解する。 〔課題(復習)〕授業内容についてまとめ、幼稚園・保育所等と小学校等の連携に関する事例を調べ、その事例に関する自分の考えを述べる。(2~4h)
12	特別支援教育のあり方と保育・教育者 特別支援教育の基礎について学び、幼稚園・保育園・認定子ども園・小中学校などにおける特別支援教育の意味や現状について理解する。 〔課題(復習)〕授業内容についてまとめ、幼稚園・保育所等で行われている特別支援に関する事例を調べ、その事例に関する自分の考えを述べる。(2~4h)
13	理想的な保育・教育現場の構想 学修してきた内容を踏まえ、グループで理想的な保育・教育現場を考え、提案する計画を立てる。プレゼンテーションなどを使用し、提案する資料を作成する。 〔課題(予習)〕提案する資料や発表の準備をする。(4~6h)
14	理想的な保育・教育現場の構想 学修してきた内容を踏まえ、グループで理想的な保育・教育現場を考え、提案する準備をする。プレゼンテーションなどを使用し、提案する資料を作成する。 〔課題(予習)〕次回、発表できるように提案する資料や発表の練習をする。(4~6h)
15	まとめ：理想的な保育・教育現場の構想発表と最終評価の実施【筆記試験】 理想的な保育・教育現場の構想を発表し、交流を行う。また、これまで学修した基礎的な知識を確認し、保育・教育者としての教育観をまとめる。 〔課題(復習)〕授業で学んだ内容について振り返り、総合的なまとめを行う。(2~4h)
時間外での学修	毎回の授業時間外課題に、しっかりと取り組みましょう。次回の授業で活用することがあります。また、保育・教育に関するニュースなどにもアンテナをはっておきましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	子どもを育てる保育・教育職について、きちんと理解することは、社会に出て職業人として生きていくために必要なことです。一緒に、充実した授業を創りましょう。オフィスアワーは、火曜日の14時から16時です。気軽に、H208へ来てください。

【1C1B103】社会福祉		幼児教育学科		1年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	川島 民子						
資格・制限等	保育士資格必修						
実務家教員	特別支援学校教員25年						
授業方法	講義、ビデオ視聴、授業のテーマに沿ったグループディスカッション等で進めていきます。活動後の振り返りやレポートにより、個別に返答、もしくは全体の場でフィードバックを行います。						
到達目標	知識・理解	社会福祉の課題と施策について保育職として必要な基本的な知識をもち、理解できる。					
	思考・判断・表現	社会福祉の課題に対する対応について、得られた知識をもとに、保育職の立場で思考・判断・表現できる。					
	技能	社会福祉の現場で必要とされる専門的な技能を身につけることができる。					
	関心・意欲・態度	社会福祉の課題や対応について関心をもち積極的に学ぶことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	少子化、貧困が社会福祉の大きな課題です。どのような施策や制度、人材によって支えられているかを学ぶとともに、高齢者福祉、障がい者福祉についても学んでいきます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	30	-	-	70
	レポート		-	10	5	-	15
	受講態度		-	-	-	15	15
	合計(点)		40	40	5	15	100
評価の特記事項	講義が中心になりますが、筆記試験だけではなく、日頃の振り返りやレポートからも評価します。受講態度は、出席状況とともに学修への取組や提出物の状況などからも評価します。						
ICT活用	社会福祉に関する動画映像の視聴や、調べ学習を通して理解を深めます						
アクティブ・ラーニングの活用	テーマに関する内容について、調べ学習やグループ協議、発表を行うことによって主体的・対話的に学修に向かえるようにします。						
課題に対するフィードバック	授業後の振り返りから、個別に返答、または全体の場でフィードバックを行います。						
テキスト							
参考書・教材	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 その他、必要な資料はその都度配付します						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション 講義で大事にしたいこと、授業の進め方、学修評価等について						
2	社会福祉とわたしたち：わたしたちの生活に社会福祉がどのように関わっているか学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
3	社会福祉の歴史：日本の福祉についてこれまでの歩みについて学ぶ。 [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
4	社会福祉の現代的課題：現代の生活課題について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
5	社会福祉の行政機関：社会福祉の公的機関について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
6	社会福祉施設：社会福祉施設の種類の形態について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
7	社会福祉と社会保障の制度：社会保険、公的扶助、社会手当等について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
8	社会福祉の専門職：社会福祉専門職の専門性について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
9	子ども家庭福祉：子どもの人権や現代課題との関連について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
10	少子化と子育て支援：現代の生活課題に対する施策について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
11	高齢者福祉：高齢者福祉の仕組みについて学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
12	障害者福祉：障害者福祉の仕組みについて学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
13	相談援助：相談援助の意味と方法について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
14	利用者支援：権利擁護や苦情解決について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
15	社会福祉についてのまとめ：社会福祉に関する話題をもとに、保育者としての在り方について考える [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
時間外での学修	参考となる本や雑誌などを進んで読むようにしましょう。 【この科目で求める望ましい授業書での総学修時間：60時間】						
受講学生へのメッセージ	社会福祉に関する基礎的な知識は保育職を目指すに当たって不可欠です。一緒に学び、考えていきましょう。オフィスアワー：研究室水曜日15：00～16：00						

【1C1B105】子ども家庭福祉		幼児教育学科		1年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	川島 民子						
資格・制限等	保育士資格必修						
実務家教員	特別支援学校教員25年						
授業方法	講義、ビデオ視聴、授業のテーマに沿ったグループディスカッション等で進めていきます。活動後の振り返りやレポートにより、個別に返答、もしくは全体の場でフィードバックを行います。						
到達目標	知識・理解	子ども家庭福祉の課題と施策について保育職として必要な基本的な知識をもち、理解できる。					
	思考・判断・表現	子ども家庭福祉の課題に対する対応について、得られた知識をもとに、保育職の立場で思考・判断・表現できる。					
	技能	子ども家庭福祉の現場で必要とされる専門的な技能を身につけることができる。					
	関心・意欲・態度	子ども家庭福祉の課題や対応について関心をもち積極的に学ぶことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	少子化が子ども福祉の大きな課題です。どのような施策や制度、人材によって支えられているかを学ぶとともに、貧困や虐待、障がい者福祉等についても学んでいきます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	30	-	-	70
	レポート		-	10	5	-	15
	受講態度		-	-	-	15	15
	合計(点)		40	40	5	15	100
評価の特記事項	講義が中心になりますが、筆記試験だけではなく、日頃の振り返りやレポートからも評価します。受講態度は、出席状況とともに学修への取組や提出物の状況などからも評価します。						
ICT活用	子ども家庭福祉に関する動画映像の視聴や、調べ学習を通して理解を深めます。						
アクティブ・ラーニングの活用	テーマに関する内容について、調べ学習やグループ協議、発表を行うことによって主体的・対話的に学修に向かえるようにします。						
課題に対するフィードバック	授業後の振り返りから、個別に返答、または全体の場でフィードバックを行います。						
テキスト							
参考書・教材	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 その他、必要な資料はその都度配付します						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション 講義で大事にしたいこと、授業の進め方、学修評価等について						
2	子ども家庭福祉とは：理念や概念、関連法律、人生とのかかわりについて学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
3	子ども家庭福祉を取り巻く社会：少子化の現状と原因・背景について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
4	子どもの権利：子どもの人権の考え方や子どもの権利ノートについて学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
5	子どもを守る法律：児童福祉法など子ども家庭福祉に関わる法律について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
6	子ども家庭福祉分野で働く専門職：専門職の役割と実際について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
7	子ども家庭福祉を実施する機関(1)：児童福祉施設の役割と実際について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
8	子ども家庭福祉を実施する機関(2)：児童相談所の役割と実際について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
9	少子化と子育て支援サービス(1)：母子保健サービスについて学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる(4~5h)						
10	少子化と子育て支援サービス(2)：ひとり親家庭の福祉サービスについて学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる						
11	少子化と子育て支援サービス(3)：子ども家庭に関する各種手当について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる						
12	子ども家庭福祉の諸問題(1)：子どもの貧困と対策について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる						
13	子ども家庭福祉の諸問題(2)：児童虐待と対策について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる						
14	子ども家庭福祉の諸問題(3)：障害児の福祉について学ぶ [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる						
15	子ども家庭福祉についてのまとめ：子ども家庭福祉に関する話題をもとに、保育者としての在り方について考える [課題(復習)] 配付された資料を復習し、関連する文献に触れる						
時間外での学修	参考となる本や雑誌などを進んで読むようにしましょう。 【この科目で求める望ましい授業書での総学修時間：60時間】						
受講学生へのメッセージ	子ども家庭福祉に関する基礎的な知識は保育職を目指すに当たって不可欠です。一緒に学び、考えていきましょう。オフィスアワー：日程調整の相談をします。						

【1C1B106】保育原理		幼児教育学科		1年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	名和 孝浩						
資格・制限等	保育士資格必修						
実務家教員							
授業方法	講義形式で保育の本質に関して学びを深める。ICTを活用したコメントの共有により、自分の意見を深めつつ、他者の様々な視点から学びを深める。						
到達目標	知識・理解	保育の意義とその内容についての基礎理論を理解する。					
	思考・判断・表現	保育所保育指針などのガイドラインを基盤として思考・判断できる。					
	技能	一人ひとりの子ども理解に応じた援助や環境構成ができる。					
	関心・意欲・態度	保育者として社会に貢献する意識を育てることができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	国が「保育」や「保育所」をどのように定め、何を求めているのかを学び、保育者が自信をもって実践に取り組むため、子どもの権利を明らかにして保育の本質を学ぶ。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		20	20	10	-	50
	レポート課題・ミニテスト等		15	10	10	-	35
	受講態度		-	-	-	15	15
	合計(点)		35	30	20	15	100
評価の特記事項	レポートは毎回の小レポートを含める。受講態度は、学修への取組状況、グループワークの参加度、発表や提出物の状況などから総合的に評価します。						
ICT活用	毎時間の授業コメントや授業内での課題をインターネット上で集約し共有する。						
アクティブ・ラーニングの活用	演習等を通して、互いの意見を交流させることで、自分自身の子ども理解を深め保育観を養う。						
課題に対するフィードバック	毎時間授業コメントの共有や助言、質疑応答などを行うことでフィードバックする。						
テキスト							
参考書・教材	『保育所保育指針解説書（厚生労働省版）』フレーベル館 『教育要領と保育指針 幼稚園教育要領解説（文部科学省版）』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府版）』フレーベル館						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション 保育所等の法的位置づけと施設の理解 [課題（予習）]なぜ保育原理を学ぶのかを考える（2～4h）						
2	保育所保育指針を基盤とした保育の理念と意義 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題（予習）]保育所保育指針を読み込む（2～4h）						
3	保育所保育指針の改訂を基盤としたねらい・内容 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題（予習）]保育所保育指針を読み込む（2～4h）						
4	保育・子育て支援制度から見た保育の現状と課題 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題（予習）]子ども・子育て支援新制度について調べる（2～4h）						
5	保育の基盤としての子ども観 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題（予習）]保育現場での実践事例について調べる（2～4h）						
6	子ども理解と保育者に求められる専門性 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題（予習）]保育現場での実践事例について調べる（2～4h）						
7	子どもが育つ環境の理解 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題（予習）]保育現場での環境構成について調べる（2～4h）						
8	保育所等における園生活の流れと意義 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題（予習）]園の生活の流れについて調べる（2～4h）						
9	園生活から見る保育内容の理解 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題（予習）]園の生活の流れについて調べる（2～4h）						
10	遊びを通じた総合的な学びとは 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題（予習）]遊びがなぜ子どもの育ちに必要なのか調べる（2～4h）						
11	保育の計画と実践の理解 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題（予習）]保育課程とねらい・内容について調べてまとめる（2～4h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
12	保育の思想と歴史の変遷 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題(予習)] 日本や諸外国の保育思想家や歴史の変遷について調べる(2~4h)
13	現代社会に求められる保育実践の理解 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題(予習)] 認定こども園について配慮すべき事項についてまとめる(2~4h)
14	保育を取り巻く今後の課題 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題(予習)] 自分が目指す保育者像について考える(2~4h)
15	総括 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題(予習)] これまでのレジメや授業内容をまとめる(2~4h)
時間外での学修	保育を取り巻く制度や政治、時事問題などに関心を持ち、情報や資料を収集する。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	子ども・保育をめぐる諸問題を扱うため、日頃から最新の情報をキャッチできるよう意識をしておいてください。「子どもについて知りたい」「子どものよりよい環境をつくりたい」「保育の歴史について知りたい」など、自分なりの興味・関心を深めていきましょう。疑問や授業に対する意見などはオフィスアワー(H211、水曜日昼休み)を活用してください。

【1C2B101】発達心理学		幼児教育学科		1年前期		
		2単位	必修	講義	30時間	
教員	茂木 七香					
資格・制限等	幼稚園教諭二種免許・保育士資格必修					
実務家教員	病院臨床心理士6年、学生相談室臨床心理士12年					
授業方法	基本的には講義形式で進めます。授業の内容に応じて、課題に取り組む、自分自身について振り返って記述する、グループワークに参加するなど、能動的な学び（アクティブラーニング）を前提とした方法も取り入れます。					
到達目標	知識・理解	全ての年齢の人を「対象」として捉え、その人の背景にある発達段階や発達課題に関する基礎的な知識を理解することができる。				
	思考・判断・表現	目の前の相手の行為や表出を相手の発達段階や理解度を考慮して多角的に分析し、判断する視点を持つことができる。				
	技能	相手を理解し、現在の発達段階の特性に合ったコミュニケーションを行うための技能を身につける。				
	関心・意欲・態度	新たに得た知識をもとに自らの学びを深め、自己理解や他者理解に努める。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	生まれてから現在まであなたの心と身体は様々な面で発達してきましたが、この後はどうなるのでしょうか？「発達」というと赤ちゃんから大人になるまでの期間がクローズアップされがちですが、その後も人は死ぬまで発達します。この授業では人を「生涯発達心理学」の視点で捉え、各発達段階の特徴や個体としての変化、他者や社会との関わりなどを心理面を中心に学びます。今まで過ごしてきた発達段階（胎児期～青年期）については自分自身を振り返りながら、そしてこの先のまだ経験していない発達段階（成人期～老年期）から人生の終わりまでについては身近な人を手掛かりにしながら人の発達を概観します。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	授業時間内課題	15	10	-	10	35
	授業時間外課題	10	10	-	15	35
	小レポート	-	-	5	-	5
	最終レポート	5	5	5	-	15
	受講態度	-	-	-	10	10
合計(点)	30	25	10	35	100	
評価の特記事項	授業時間内課題：授業中に記入し提出するワークシートやミニツッペーパー 授業時間外課題：時間外に取り組む次回授業で提出する課題 レポート：ルーブリック（評価基準）とともに課題内容を提示					
ICT活用	学修内容の理解度確認や受講生間の意見交流のためにクラウドサービスsli.doやGoogleフォームなどを使用します。					
アクティブラーニングの活用	sli.doによる発言、グループワーク、意見交流など。					
課題に対するフィードバック	ミニツッペーパー、授業時間外課題やレポートへのコメントを返します。					
テキスト	『発達心理学15講』高橋一公・中川佳子編著 北大路書房(2,200円) ISBN:978-4-7628-3057-0					
参考書・教材	保育所保育指針 幼稚園教育要項 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 補足資料を授業で配付します。その他、参考図書や関連動画などは授業中に適宜紹介します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	はじめに（シラバス説明、文章の書き方、Slidoの使い方） 第1部：発達心理学の基礎と理論 第1講：発達心理学の基礎 [課題(復習)]教科書第1講（P1～P16）の復習、授業で指定する課題（2～4h）					
2	第2講：発達心理学の理論 1節：学習理論からみた発達 [課題(復習)]第2講（P17～P23）の復習、授業で指定する課題（2～4h）					
3	第2講：発達心理学の理論 2節：認知発達理論 3節：社会的関係の中での発達理論 第3講：発達心理学の理論 [課題(復習)]第2講～第3講（P24～P42）の復習、授業で指定する課題（2～4h）					
4	第2部：発生から第二次性徴までの変化 第4講：胎生期から新生児期まで [課題(復習)]第4講（P43～54）の復習、授業で指定する課題（2～4h）					
5	第5講：乳児期の発達 [課題(復習)]第5講（P55～P66）の復習、授業で指定する課題（2～4h）					
6	第6講：幼児期の機能と発達 第7講：幼児期の社会性 [課題(復習)]第6講・第7講（P67～P89）の復習、授業で指定する課題（2～4h）					
7	第8講：児童期の発達 [課題(復習)]第8講（P90～P99）の復習、小レポート作成の準備（2～4h）					
8	1～7回目の復習 図書館活用授業（子どもの発達を絵本から読み取る） [課題(復習)]自分の選んだ絵本を用いて小レポートを作成する（4～6h）					
9	第3部：疾風怒濤の時代 青年期から成人期前期 第10講：青年期の特徴と自我同一性の獲得 [課題(復習)]第10講（P116～P126）の復習、授業で指定する課題（2～4h）					
10	第11講：青年期から成人期へ [課題(復習)]第11講（P127～P139）の復習、授業で指定する課題（2～4h）					
11	第12講：青年期以降のメンタルヘルスと精神保健 [課題(復習)]第12講（P140～P150）の復習、授業で指定する課題（2～4h）					
12	第4部：喪失の時代から超越へ 第13講：中年期の発達と危機 [課題(復習)]第13講（P151～P162）の復習、授業で指定する課題（2～4h）					
13	第14講：エイジングと心理的变化 [課題(復習)]第14講（P163～P176）の復習、授業で指定する課題（2～4h）					
14	第15講：「死」への対応 [課題(復習)]第15講（P177～P188）の復習、最終レポート作成の準備（2～4h）					
15	まとめ レポートテーマの交流 最終レポート作成のためのワーク [課題(復習)]最終レポートの作成（4～6h）					

時間外での学修	<p>毎回の授業時間外課題や小レポートにしっかり取り組んでください。次回授業で用いることもあります(反転授業)。授業で学んだ後には「あなたも周りの人も様々な面で発達しながらこれまでの人生を過ごしてきた今この瞬間にも発達しているのだ」ということを意識して、世の中を新たな視点で捉え直してみてください。</p> <p>【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>発達心理学はあなたが今まさに生きている人生の過程についての学問です。当事者として楽しむ視点と学問として学ぶ視点の両方を持って受講すると、より深く学ぶことができます。 オフィスアワー：金曜日の12時10分～13時（A306研究室）、授業時間の前後（講義室）</p>

【1C2B106】子どもの保健		幼児教育学科		1年前期	
		2単位	選択	講義	30時間
教員	浅井 佳士・岩瀬 桃子				
資格・制限等	保育士資格必修				
実務家教員	浅井：病院看護師5年以上 岩瀬：病院看護師5年以上				
授業方法	キストと配布資料等の教材を用いた講義を中心に進めていきます。				
到達目標	知識・理解	子どもの成長・発達、母子保健活動と施策、子どもの病気について、基本的な知識を理解できる			
	思考・判断・表現	子どもの成長・発達と母子保健活動・施策の関連性を考え、子どもの健康を守るための取り組みと課題について考えを述べるができる			
	技能	関連する資料から子どもの保健に関する現状や課題について説明できる			
	関心・意欲・態度	子どもの成長・発達と母子保健活動・施策について関心を持ち、積極的・主体的に学修に取り組むことができる			
	備考	○ の記号は、DP・到達目標と結びつきの強さを示しています。			

授業内容 子どもの保健は、子どもの心と体の健康について考え、子どもの健康を守り、健やかな育ちを支えることについて学科目です。取り巻く環境からの影響を受けながら成長する子どもたちの特徴を理解するとともに、子どもの身体的成長や機能的発達、母子保健活動と施策、子どもと病気について学びます。

観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	小テスト	60	20	-	-	80
	レポート	-	5	5	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	60	25	5	10	100

評価の特記事項	教科書および講義内容を中心に知識の修得度の小テストまたはレポートで評価します。
ICT活用	
アクティブ・ラーニングの活用	講義の中で双方向のディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	小テストまたはレポートは、次回の授業でフィードバックします
テキスト	『『新基本保育シリーズ「子どもの保健」』』松田博雄、金森三枝 中央法規(2,200円)
参考書・教材	必要な資料は授業で配布します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1 浅井	ガイダンス、子どもの健康と保育(子どもとは、大人とは、養護と教育、保育における活動の場) [課題(予習)]テキスト第1講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)
2 浅井	子どもの健康概念と健康指標 [課題(予習)]テキスト第2講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)
3 浅井	子どもの健康と母子保健策 [課題(予習)]テキスト第3講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)
4 浅井	地域保健活動と児童虐待の防止 [課題(予習)]テキスト第4講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)
5 浅井	子どもの成長と発達 [課題(予習)]テキスト第5講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)
6 浅井	生理機能の発達と保健 [課題(予習)]テキスト第1講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)
7 浅井	健康状態の観察、子どもによくみられる症状 [課題(予習)]テキスト第7講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)
8 浅井	発育・発達 [課題(予習)]テキスト第8講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)
9 浅井	子どもと病気(子どもの病気の理解、病気が子どもと家族に及ぼす影響) [課題(予習)]テキスト第9講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)
10 岩瀬	新生児の病気、先天性の病気の子どもと家族への対応 [課題(予習)]テキスト第10講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)
11 岩瀬	循環器、呼吸器、消化器系の疾患をもつ子どもと家族への対応 [課題(予習)]テキスト第11講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)
12 岩瀬	ネフローゼ症候群、糖尿病の子どもと家族への対応 [課題(予習)]テキスト第12講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)
13 岩瀬	脳性麻痺、てんかんのある子どもと家族への対応 [課題(予習)]テキスト第13講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)
14 岩瀬	ウイルス感染症(麻疹、風疹、水痘、耳下腺炎)の子どもと家族への対応 [課題(予習)]テキスト第14講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)
15 浅井	病気の予防と予防接種 [課題(予習)]テキスト第15講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)

時間外での学修	毎回の授業時間外課題にしっかりと取り組んでください。そして理解につなげましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	日頃から子どもに関するニュースや出来事に関心を持ち、日常生活で接する子どもの様子を意図的に観察して下さい。オフィスアワーは担当教員が授業で説明します。

【1C3S202】保育内容「人間関係」の指導法		幼児教育学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	名和 孝浩						
資格・制限等	幼稚園教諭二種免許・保育士資格必修						
実務家教員							
授業方法	演習や指導計画に基づいた模擬保育・ロールプレイ等。						
到達目標	知識・理解	領域「人間関係」のねらい及び内容とその全体構造について理解する。					
	思考・判断・表現	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、自立心を育て、人と関わる力を養うために子どもが経験し身に付けていく内容と指導上の留意点について考えることができる。					
	技能	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえた教材研究や保育構想を計画し、保育を改善する視点を身に付けている。					
	関心・意欲・態度	模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、領域「人間関係」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	領域「人間関係」のねらい及び内容について、情報機器及び教材を活用しながら、子どもの姿と保育実践とを関連させて理解を深める。その上で、子どもの発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身につける。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		15	20	15	-	50
	授業課題等		15	15	5	-	35
	受講態度		-	-	-	15	15
	合計(点)		30	35	20	15	100
評価の特記事項	受講態度は、学修への取組状況、発表やグループワークの参加態度から総合的に評価します。						
ICT活用	授業内容や質問事項についてICTを活用した意見集約と共有をする。						
アクティブ・ラーニングの活用	演習や模擬保育を通して互いの意見や保育方法に触れ、自分自身の保育観を養う。						
課題に対するフィードバック	各授業ごとの演習課題や時間外課題を中心に、Googleフォームで回答を集約し、フィードバックする。						
テキスト							
参考書・教材	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション：領域「人間関係」とは ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題(復習)] 現代における人間関係に関する課題とについてまとめる(1h)						
2	保育者と子どもの関係づくり(1) 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題(復習)] 子どもにとって受け止められる心地よさを感じる関係づくりについてまとめる(1h)						
3	保育者と子どもの関係づくり(2) 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題(復習)] 「褒める」「認める」言葉かけから、保育者として子どもとどのような関係性を築いていくかまとめる(1h)						
4	ロールプレイから学ぶ子どもの発達と人間関係 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題(復習)] ロールプレイからの学びと子どもの発達に応じた人間関係についてワークシートにまとめる(1h)						
5	子ども同士の仲間関係の育ち 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題(復習)] 授業で学修した内容についてまとめる(1h)						
6	領域「人間関係」における自立心の育ち 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題(復習)] 自立心が育つための保育者の援助・配慮点についてまとめる(1h)						
7	社会性の育ち：いざこざ場面に着目して 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題(復習)] 授業で学修した内容についてまとめる(1h)						
8	対話的な子どもの学び 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題(復習)] 授業で学修した内容についてまとめる(1h)						
9	領域「人間関係」における協同性の育ち 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題(復習)] 協同性が育つための保育者の援助・配慮点についてまとめる(1h)						
10	映像から見る幼児期における園生活での人間関係の育ち 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題(復習)] 授業で学修した内容についてまとめる(1h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
11	領域「人間関係」における道徳性・規範意識の芽生えの育ち 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題(復習)]道徳性・規範意識が育つための保育者の援助・配慮点についてまとめる(1h)
12	領域「人間関係」における社会生活との関わりの育ち 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題(復習)]社会生活との関わりが育つための保育者の援助・配慮点についてまとめる(1h)
13	親と子どもと保育者がつながる子育て支援 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題(復習)]授業で学修した内容についてまとめる(1h)・地域の中の幼稚園・保育所：ICTの活用と協働学習により、様々な人とのかかわりにある特徴を捉えて、乳幼児期に経験させたい地域の人とのかかわりを考える ・課題の確認 [課題(復習)]授業で学修した内容についてまとめる(1h)
14	多様性を受け止める社会と人間関係 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題(復習)]授業で学修した内容についてまとめる(1h)
15	領域「人間関係」のまとめ 課題の確認 ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 [課題(復習)]授業で学修した内容についてまとめる(1h)
時間外での学修	領域「人間関係」を取り巻く課題などに日頃から関心を持ち、情報や資料を収集する。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	「人間関係」を育む遊びや生活につながる保育実践力を養うこと。またグループワークや事例検討を通して、多角的に考察・分析する保育者としてのまなざしを育てましょう。疑問や授業に対する意見などはオフィスアワー(H211、水曜日昼休み)を活用してください。

【1C3S204】保育内容「言葉」の指導法		幼児教育学科		1年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	宮本 絢子					
資格・制限等	幼稚園教諭二種免許・保育士資格必修					
実務家教員	保育士10年、市役所保育主管課5年					
授業方法	講義と演習					
到達目標	知識・理解	幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容を理解している				
	思考・判断・表現	幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している				
	技能	領域「言葉」の特性および幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる				
	関心・意欲・態度	具体的な保育を想定した指導案の作成や模擬保育の振り返りを通して保育を改善する視点を身につけることができる				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	保育者は、子どもの「言葉にならない言葉」も含めて、子どもの言葉に耳を傾け、あたたかく応答し、子どもが言葉を用いることを楽しみ、味わい、広げていく支えになることが重要です。ここでは、乳幼児期の子どもの言葉が、日常生活の中での身近な人とのかかわりを通して育つことを学びます。言葉の育ちにかかわる保育の様々な場面を示し、保育者の役割や援助を実践的に考察しながら、子どもの豊かな言葉を育むために保育者は、どのように保育内容「言葉」を構想し、実践すべきかを探求します。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	期末定期試験	25	-	-	-	25
	レポート	10	10	5	-	25
	授業への姿勢	-	10	10	15	35
	受講態度	-	-	-	15	15
合計(点)	35	20	15	30	100	
評価の特記事項	絵本や紙芝居など授業に必要なものを忘れずに準備できているか、提出物の提出期限を守ることができているか、についても評価に含みます。					
ICT活用						
アクティブ・ラーニングの活用	グループワークや発表など					
課題に対するフィードバック	授業の最初に、前回のレポート（振り返りシート）をクラスで共有します。					
テキスト	『保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」』馬見塚昭久 / 小倉直子 ミネルヴァ書房 (2,400円) ISBN:978-4-623-09251-2 幼児と言葉（前期）と同じテキストを使用します。					
参考書・教材	「保育所保育指針解説」フレーベル館 「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」フレーベル館 毎回持参して下さい。重要な所に下線を引いたりして活用します。 参考書：「子どもの姿からはじめる 領域・言葉」 みらい その他、絵本ノートの作成に必要な教材等については、授業中に指示します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	授業のオリエンテーション、進め方、評価の説明して授業の概要を知る。 [課題(復習)] 今日の資料を整理し、授業概要について理解を深める。(1h)					
2	保育における「言葉」とは [課題(復習)] 絵本ノートの作成・今日の内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)					
3	乳児保育における言葉を育む保育実践 [課題(復習)] 絵本ノートの作成・今日の内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)					
4	乳児保育における言葉を育む保育実践（指導案など） [課題(復習)] 絵本ノートの作成・今日の内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)					
5	1歳以上3歳未満児の保育における言葉を育む保育実践 [課題(復習)] 絵本ノートの作成・今日の内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)					
6	1歳以上3歳未満児の保育における言葉を育む保育実践（指導案など） [課題(復習)] 絵本ノートの作成・今日の内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)					
7	3歳以上児の保育における言葉のやり取りを育む保育実践 [課題(復習)] 絵本のノートの作成・今日の内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)					
8	3歳以上児の保育における言葉のやり取りを育む保育実践（指導案など） [課題(復習)] 絵本ノートの作成・今日の内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)					
9	言葉の感覚やイメージを育む保育実践 [課題(復習)] 絵本ノートの作成・今日の内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)					
10	文字や記号に対する感覚や興味・関心を育む保育実践 [課題(復習)] 今日の内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)					
11	文字や記号に対する感覚や興味・関心を育む保育実践（あそび歌の実践） [課題(復習)] 今日の内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)					
12	領域「言葉」と10の姿 [課題(復習)] 今日の内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)					
13	領域「言葉」と特別なニーズを持つ子ども [課題(復習)] 今日の内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)					
14	現代社会における課題と言葉を育てる保育者の役割 [課題(復習)] 今日の内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)					
15	全体のまとめ [課題(復習)] これまでの内容を振り返り、全体のまとめをする。(1h)					

時間外での学修	日頃から、大学の図書館を積極的に利用し、絵本や紙芝居を中心にした児童文化財に興味、関心をもって触れる努力をしましょう。 【この科目に求める望ましい授業時間外での総学修時間：30時間】
受講学生へのメッセージ	地域の図書館等に行き、おはなし会に参加するなど、たくさんの児童文化財に触れたりすることで心豊かな保育者に成長していけるようにしましょう。オフィスアワー：授業内に示します。

【1C3B108】乳児保育		幼児教育学科		1年前期	
		2単位	選択	講義	30時間
教員	宮本 絢子				
資格・制限等	保育士資格必修				
実務家教員	保育士10年、市役所保育主管課5年				
授業方法	講義が中心ですが、ビデオ視聴やグループワークなども取り入れる予定です。				
到達目標	知識・理解	子どもの年齢による発達特性や成長のようす、乳児の発達や安全面で留意することについて理解する			
	思考・判断・表現	保護者とともに子育てをしていく姿勢を持って、子どもの行為の意味に気づき、それらを分析・判断し、実践に活かそうとすることができる			
	技能	子どもの成長発達に応じた生活の課題や遊びについて、保育技術を活用した指導や支援ができる			
	関心・意欲・態度	保育者として必要な専門的知識を活かしたコミュニケーション能力を身につける			
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。			

人の一生の中で、著しい成長発達を遂げる乳幼児期は、人間として成長する基礎作りとして、とても大切な時期です。3歳未満児の発達について、月齢ごとの特徴を学び、保育者としてどのように接すればよいかを理解します。また、3歳未満児の保育内容と方法を理解して、保育に必要な知識や技術を身につけられるようにします。

観点別評価	評価の方法	評価の観点				合計(点)
		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	
	期末筆記試験	30	-	-	-	30
	レポート	-	25	5	-	30
	授業への姿勢	-	-	10	15	25
	受講の態度	-	-	-	15	15
	合計(点)	30	25	15	30	100

レポート(振り返りシート)は、毎時間の内容を振り返り、自分の考えや感想をまとめること。授業への姿勢は、乳児保育に興味関心を深く持ち、知識技術を習得しようと努力する姿を評価する。

ICT活用

アクティブラーニングの活用  
グループワーク、グループディスカッションなど

課題に対するフィードバック  
授業の最初に、前回のレポート(振り返りシート)をクラスで共有します。

テキスト  
『よくわかる!保育士エクササイズ5 乳児保育演習ブック[第2版]』松本峰雄 監修 池田りな/才郷真弓/土屋由/堀科 著 ミネルヴァ書房(2,750円)ISBN:978-4-623-08642-9  
『0・1・2歳児の発達と保育:乳幼児の遊びと生活』乳幼児の発達と保育研究会 郁洋舎(2,420円)ISBN:978-4-910467-07-8  
乳児保育(後期)の授業でも同じテキスト(2冊)を使用しますので、購入してください。

参考書・教材  
「保育所保育指針」フレーベル館 「幼稚園教育要領」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育保育要領」フレーベル館 毎回持参して下さい。重要な所に下線を引いたりして活用します。その他、授業中に紹介します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	授業のオリエンテーション、進め方、評価の説明して授業の概要を知る。 [課題(復習)]今日の資料を整理し、授業概要について理解を深める。(4h)
2	乳児保育とは:乳児保育の概念、乳児保育の意義、乳児保育の変遷について学ぶ。 [課題(復習)]今日の資料を整理し、関心をもった乳児に関するニュース等をまとめる。(4h)
3	乳児保育における保護者との関係:子育てをする家庭の現状を知り、子育てに対する不安を理解し、保護者との関係づくりの大切さについて学ぶ。 [課題(復習)]今日の資料を整理し、自分や家族の子ども時代の話を書きまとめてみる。(4h) [課題(準備)]母子手帳を用意しておく。
4	乳児期の発達:母子手帳を見ながら、出生時や発育発達の様子を知り、気づいたことをまとめる。 [課題(復習)]記録した保護者の気持ちを想像したり、聞いたエピソードをまとめる。(4h)
5	乳児と保育所の1日:乳児が保育所で過ごす1日の生活活動について [課題(復習)]今日の資料を整理して、乳児の保育園での生活スケジュールを確認する。(4h)
6	乳児保育の保育内容と実践 [課題(復習)]今日の資料を整理し、3歳未満児の保育内容についてまとめる。(4h)
7	6か月未満の子どもの育ちと保育1:0~3か月、4~6か月未満の発達の様子と関わり方について [課題(復習)]今日の資料を整理し、6か月未満の乳児の姿をまとめる。(4h)
8	6か月未満の子どもの育ちと保育2:0~3か月、4~6か月未満の生活と遊びの援助について [課題(復習)]今日の資料を整理し、6か月未満の乳児の生活と遊びについてまとめる。(4h)
9	6か月以上1歳未満の子どもの育ちと保育1:6か月以上1歳未満の発達の様子と関わり方について [課題(復習)]今日の資料を整理し、6か月以上1歳未満の乳児の姿をまとめる。(4h)
10	6か月以上1歳未満の子どもの育ちと保育2:6か月以上1歳未満の発達の生活と遊びの援助について [課題(復習)]今日の資料を整理し、6か月以上1歳未満の乳児の生活や遊びについてまとめる。(4h)
11	1歳児の育ちと保育1:1歳以上2歳未満の発達の様子と関わり方について [課題(復習)]今日の資料を整理し、1歳以上2歳未満の乳児の姿をまとめる。(4h)
12	1歳児の育ちと保育2:1歳以上2歳未満の生活と遊びの援助について [課題(復習)]今日の資料を整理し、1歳以上2歳未満の生活と遊びについてまとめる。(4h)
13	2歳児の育ちと保育1:2歳以上3歳未満の発達の様子と関わり方について [課題(復習)]今日の資料を整理し、2歳以上3歳未満の乳児の姿をまとめる。(4h)
14	2歳児の育ちと保育2:2歳以上3歳未満の生活と遊びの援助について [課題(復習)]今日の資料を整理し、2歳以上3歳未満の生活と遊びについてまとめる。(4h)
15	全体のまとめ [課題(復習)]これまでの資料を整理し、乳児保育のポイントをまとめておく。(4h)

時間外での学修	<p>保育者になることを意識して、日頃から保育に関する話題に関心を持ち、まとめておきましょう。また、自分自身の幼少期を振り返ったり、身近な方々に、出生時等のエピソードをきいておきましょう。「母子手帳」を使いますので、手元に用意しておきましょう。</p> <p>【この科目に求める望ましい授業時間外での総学修時間：60時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>乳児期の子どもの発達と乳児保育の大切さについて十分に理解し、予想される子どもの姿を考える力と保育を見通す力がつくようにしていきましょう。オフィスアワー：授業内に指示します。</p>

【1C3S209】乳児保育		幼児教育学科		1年後期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	宮本 絢子					
資格・制限等	保育士資格必修					
実務家教員	保育士10年、市役所保育主管課5年					
授業方法	講義と演習。演習では、グループワークやグループディスカッション、発表を行います。					
到達目標	知識・理解	子どもの年齢による発達特性や成長のようす、育児で留意することについて理解する				
	思考・判断・表現	保護者とともに子育てしていく姿勢を持って、適切な保育や相談支援をすることができる				
	技能	子どもの成長発達に応じた生活の課題や遊びについて、保育技術を活用した指導や支援ができる				
	関心・意欲・態度	保育者として必要な専門的知識を活かしたコミュニケーション能力を身につける				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	人の一生の中で、著しい成長発達を遂げる乳幼児期は、人間として成長する基礎作りとして、とても大切な時期です。3歳未満児の発達について、月齢ごとの特徴を学び、保育者としてどのように接すればよいかを理解します。また、3歳未満児の保育内容と方法を理解して、保育に必要な知識や技術を身につけられるようにします。前期に学んだことを基礎として、さらに実践に役立つ演習を行います。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	期末筆記試験	25	-	-	-	25
	レポート	-	15	5	-	20
	授業への姿勢	-	15	10	15	40
	受講の態度	-	-	-	15	15
合計(点)	25	30	15	30	100	
評価の特記事項	レポート(振り返りシート)は、毎時間の内容を振り返り、自分の考えや感想をまとめること。また、授業への姿勢および受講の態度は、手作りおもちゃの材料等準備を忘れず、完成品の提出期限を守ること。					
ICT活用						
アクティブ・ラーニングの活用	グループワーク、グループディスカッション、発表など					
課題に対するフィードバック	授業の最初に、前回のレポート(振り返りシート)をクラスで共有します。					
テキスト	『よくわかる!保育士エクササイズ5 乳児保育演習ブック[第2版]』松本峰雄 監修 池田りな/才郷眞弓/土屋由/堀科 ミネルヴァ書房(2,750円) ISBN:978-4-623-08642-9 『0・1・2歳児の発達と保育:乳幼児の遊びと生活』乳幼児の発達と保育研究会 郁洋舎(2,420円) ISBN:978-4-910467-07-8 乳児保育(前期)の授業で使用するテキスト(2冊)と同じです					
参考書・教材	「保育所保育指針」フレーベル館 「幼稚園教育要領」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育保育要領」フレーベル館 毎回持参して下さい。重要な所に下線を引いたりして活用します。 参考書:「アクティブラーニング対応 乳児保育II」明文書林 その他、授業中に紹介します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	授業のオリエンテーション、進め方、評価の説明して授業の概要を知る。 [課題(復習)]今日の資料を整理し、授業概要について理解を深める。(1h)					
2	乳児保育の環境:乳児の視点でとらえる環境の重要性を知り、基本的な環境や保育指針に示された環境について学ぶ。 [課題(復習)]今日の資料を整理し、乳児保育の環境の重要性についてまとめる。(1h)					
3	乳児の集団保育と安全:乳児の集団での生活における配慮の大切さについて学ぶ。 [課題(復習)]今日の資料を整理し、乳児の集団生活における配慮についてまとめる。(1h)					
4	乳児のあそびと環境:あそびの重要性を知り、保育士の役割やかかわり方を考える。 [課題(復習)]今日の資料を整理し、乳児のあそびについてまとめる。(1h)					
5	乳児の発達を考えたあそび:月齢、年齢別に遊びの特徴と内容を実践し、遊びのレパートリーを増やしていく。 [課題(復習)]今日の資料を整理する。3歳未満児の遊びを再現したり練習をする。(1h)					
6	保育者の配慮と心構え:保育現場で保護者と接する心構えや職員間の連携(チーム保育)を学ぶ。 [課題(復習)]今日の資料を整理し、授業のポイントをまとめる。(1h)					
7	保育の記録と計画(1):保育記録の意義や取り方について学ぶ。 [課題(復習)]今日の資料を整理し、観察と記録のポイントをまとめる。(1h)					
8	保育の記録と計画(2):保育計画の具体例をみながら計画の作成について理解する。 [課題(復習)]今日の資料を整理し、3歳未満児の保育計画の作成のポイントをまとめる。(1h)					
9	保育の記録と計画(3):実際に3歳未満児の指導計画を作成する。 [課題(復習)]今日の資料を整理し、3歳未満児の保育計画の作成のポイントをまとめる。(1h)					
10	3歳未満児の発達に即した手作りおもちゃ(1):0・1・2歳各年齢発達に合った手作りおもちゃの計画を立てる。(大学の図書館を利用する) [課題(準備)]0・1・2歳の手作りおもちゃ(各1点)の計画書を完成させて、必要なものを用意する。(1h)					
11	3歳未満児の発達に即した手作りおもちゃ(2):0歳児のおもちゃを作る。 [課題(準備)]手作りおもちゃの作成に必要なものを用意する。(1h)					
12	3歳未満児の発達に即した手作りおもちゃ(3):1歳児のおもちゃを作る。 [課題(準備)]手作りおもちゃの作成に必要なものを用意する。(1h)					
13	3歳未満児の発達に即した手作りおもちゃ(4):2歳児のおもちゃを作る。 [課題(準備)]手作りおもちゃ(3点)を完成させて、次回の発表の練習をする。(1h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
14	3歳未満児の発達に即した手作りおもちゃ(5)：手作りおもちゃを発表する。 【課題】良い点・改善点を受け止め、改善したものを期限までに提出する。(1h)
15	全体のまとめ 【課題(復習)】今までの配布資料をまとめて、全体の内容について振り返りをする。(1h)
時間外での学修	保育者になることを意識して、日頃から赤ちゃんや3歳未満児の子どもや親子に関心を持って観察し、気づいたことを記録しておきましょう。 【この科目に求める望ましい授業時間外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	授業では、図書館を利用しますので、学生証を忘れずに携帯しておきましょう。 前期の学びを活かして、乳児保育の実践力を身につけていきましょう。 オフィスアワー：授業内に指示します。

【1C3S210】子どもの健康と安全		幼児教育学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	遠渡 絹代						
資格・制限等	保育士資格必修						
実務家教員	遠渡：病院看護師20年以上						
授業方法	テキストと配布資料等の教材を用いた講義を中心に進めていく。						
到達目標	知識・理解	子どもの保健的観点を踏まえた保育環境について理解できる 子どもの主な疾患や症状について理解できる					
	思考・判断・表現	病気をもち子どもへの支援について考えることができる					
	技能	子どもの症状の観察について説明できる 子どもの健康や安全について説明できる					
	関心・意欲・態度	病気をもち子どもの健康的な生活や子どもを取り巻く多機関との連携に関心をもち、積極的・主体的に学修に取り組むことができる					
授業内容	保育における保健的観点を踏まえた保育環境や子どもの健康について理解する。子どもの病気や起こりやすい事故の特徴を理解するとともに、保育者として子どもにとって安全な生活を送るための支援方法。子どもを取り巻く多機関との連携について学びます。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	小テスト		60	20	-	-	80
	レポート		-	5	5	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)			60	25	5	10	100
評価の特記事項	教科書および講義内容を中心に知識の修得度の小テストまたはレポートで評価する						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	グループ・ディスカッション						
課題に対するフィードバック	小テストまたはレポートは、次回の授業でフィードバックします。						
テキスト	『『新基本保育シリーズ「子どもの健康と安全」』』松田博雄、金森三枝 中央法規(2,200円)						
参考書・教材	必要な資料は授業で配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1回	ガイダンス：授業の進め方 子どもの健康と保育の環境 [課題(予習)]テキスト第1講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
2回	子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康 [課題(予習)]テキスト第2講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
3回	子どもと職員の衛生管理 [課題(予習)]テキスト第3講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
4回	保育所の事故防止と安全対策 [課題(予習)]テキスト第4講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
5回	危機管理と災害への備え [課題(予習)]テキスト第5講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
6回	子どもの体調不良などに対する適切な対応 [課題(予習)]テキスト第6講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
7回	救急処置および救急蘇生法 [課題(予習)]テキスト第7講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
8回	感染症への予防と対応 [課題(予習)]テキスト第8講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
9回	保育における保健的対応の基本的な考え方 [課題(予習)]テキスト第9講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
10回	3歳未満児の特徴と適切な対応 [課題(予習)]テキスト第10講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
11回	個別的な配慮を必要とする子どもへの対応(慢性疾患、アレルギー、先天性心疾患等) [課題(予習)]テキスト第11講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
12回	障害のある子どもへの適切な対応(重症心身障がい児・医療的ケア児) [課題(予習)]テキスト第12.15講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
13回	障害のある子どもへの適切な対応(発達障害児) [課題(予習)]テキスト第12.13講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
14回	保育における保健計画および評価 [課題(予習)]テキスト第14講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
15回	子どもを中心とした家庭・専門機関・地域との連携、虐待児への対応 [課題(予習)]テキスト第13.15講を通読する(1h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(1h)						
時間外での学修	毎回の授業時間外課題にしっかりと取り組んでください。そして理解につなげましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	健康に問題をもちながら生活している子どもにとって、子どもらしく成長発達していくためにどのような支援が必要なのか考えてみましょう。						

【1C3B211】障がい児保育		幼児教育学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	垣添 忠厚						
資格・制限等	保育士資格必修						
実務家教員	垣添忠厚：特別支援学校教諭（18年）、発達障害者支援センター（2年）						
授業方法	講義・演習を通して障がいに対する理解が広がることを目指します。多様な障がいについて、個人ワークやグループワークなどから、その捉え方についての自ら考えを深めます。また、映像教材や絵本などを使って事例に触れながら実践的に学びます。						
到達目標	知識・理解	障がいについての基礎的な知識を理解し、人権意識を高める。					
	思考・判断・表現	障がい特性やその特性による行動への影響についてまとめたり、発表したりする事ができる。					
	技能	保育所等での障がいのある子どもへの具体的な対応について考えることができる。					
	関心・意欲・態度	積極的に課題に取り組み、資料を調べたり、考えをまとめたりする事ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	障がいの有無にかかわらず、あらゆる人がお互いに人格と構成を尊重し、支え合う共生社会の実現を目指すノーマライゼーションの理念のもと、保育所等で集団生活や活動に困っている子どもに着目し、なぜその子どもが困っているか、どう対応するとよいか考えます。また、その要因となる様々な障がいの特徴や特性を理解することで、インクルーシブな保育の推進について理解を深めます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	振り返りのレポート		20	10	-	-	30
	自己評価（毎時のレポート）		-	10	10	-	20
	課題提出（ワーク・まとめ）		10	10	10	-	30
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		30	30	20	20	100
評価の特記事項	小テストは、学修のまとめの確認として、第15週の授業内で実施します。毎回の授業の終わりに提示した自己評価の振り返りのレポートや、授業内での課題ワークを評価の対象とします。受講態度は、出席の状況、授業中の取り組む姿勢から評価します。						
ICT活用	障がい等の特徴が視覚的に分かりやすいように映像等を活用します。学生同士の意見が交流できるようにICT機器を活用します。						
アクティブ・ラーニングの活用	グループワークを通して、互いの考えを認め合いながら見聞を広げられるようにします。						
課題に対するフィードバック	毎回の授業のはじめに、前回のレポートから学生の率直な感想や意見、質問などをフィードバックし、他者の考えや感じ方を共感したり疑問に思っていたことを解決したりできる時間を設けます。						
テキスト	『特別支援 教育・保育概論 - 特別な配慮を要する子どもの理解と支援』野尾明美 小湊真衣 奥田倫子 萌文書林 ISBN:978-4-89347-320-2 C3037						
参考書・教材	保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育保育要領 授業時に必要なプリント等を配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	(10/1)オリエンテーション（この講義で大切にしたいこと、授業の進め方、学修評価等について） 障がい児保育を支える理念（1） ・「障がい」の捉え方や障がい児保育の歴史について学ぶ [課題(予習)] これまでに出会った障がいのある人々についてまとめておく。(1-2h)						
2	(10/15)障がい児保育を支える理念（2） ・障がいのある子どもの地域社会への参加・包摂（インクルージョン）の考え方を理解する ・障害児保育の基本について理解する [課題(予習)] 事前にテキストを読み自分なりの考えをまとめ、また、わからない用語について調べておく。(1-2h)						
3	(10/10)障がい児の理解と保育（1） 12/24休講分の補講 ・視覚障がいの特徴と視覚障がい児についての理解 [課題(復習)] 授業での学びを振り返り、大切な点をまとめる。また、疑問点を挙げ調べレポートにまとめる。(1~2h)						
4	(10/8)障がい児の理解と保育（2） ・聴覚障がいの特徴と聴覚障がい児についての理解 [課題(復習)] 授業での学びを振り返り、大切な点をまとめる。また、疑問点を挙げ調べレポートにまとめる。(1~2h)						
5	(10/22)障がい児の理解と保育（3） ・肢体不自由の特徴と肢体不自由児についての理解 [課題(復習)] 授業での学びを振り返り、大切な点をまとめる。また、疑問点を挙げ調べレポートにまとめる。(1~2h)						
6	(10/29)障がい児の理解と保育（4） ・知的障がいの特徴と知的障がい児についての理解 [課題(復習)] 授業での学びを振り返り、大切な点をまとめる。また、疑問点を挙げ調べレポートにまとめる。(1~2h)						
7	(11/5)障がい児の理解と保育（5） ・重症心身障がいの特徴と重症心身障がい児についての理解 ・医療的ケアについての理解 [課題(復習)] 授業での学びを振り返り、大切な点をまとめる。また、疑問点を挙げ調べレポートにまとめる。(1~2h)						
8	(11/12)障がい児の理解と保育（6） ・病弱、身体虚弱の特徴と病弱児についての理解 ・情緒障害、場面緘黙の特徴の理解 [課題(復習)] 授業での学びを振り返り、大切な点をまとめる。また、疑問点を挙げ調べレポートにまとめる。(1~2h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
9	(11/19)障がい児の理解と保育(7) ・発達障害についての理解 [課題(復習)]授業での学びを振り返り、大切な点をまとめる。また、疑問点を挙げ調べレポートにまとめる。(1~2h)
10	(11/26)障がい児の理解と保育(8) ・発達障害(ASD:自閉スペクトラム症)の特徴とASD児の理解 [課題(復習)]授業での学びを振り返り、大切な点をまとめる。また、疑問点を挙げ調べレポートにまとめる。(1~2h)
11	(12/3)障がい児の理解と保育(9) ・発達障害(ADHD:注意欠如・多動性障害)の特徴とADHD児の理解 [課題(復習)]授業での学びを振り返り、大切な点をまとめる。また、疑問点を挙げ調べレポートにまとめる。(1~2h)
12	(12/10)障がい児の理解と保育(10) ・発達障害(SLD:限局性学習障害)の特徴とSLD児の理解 [課題(復習)]授業での学びを振り返り、大切な点をまとめる。また、疑問点を挙げ調べレポートにまとめる。(1~2h)
13	(12/17)障がい児の理解と保育(11) ・ことばの発達の遅れ、吃音症のある子どもの理解 ・その他の発達障がい(感覚の過敏と鈍麻等)のある子どもの理解 [課題(復習)]授業での学びを振り返り、大切な点をまとめる。また、疑問点を挙げ調べレポートにまとめる。(1~2h)
14	(1/7)保育所等における障がい児への対応の実際 ・障がいのある子どもの保育現場での事例検討 [課題(復習)]授業での学びを振り返り、大切な点をまとめる。また、疑問点を挙げ調べレポートにまとめる。(1~2h)
15	(1/14)保育所内外での連携 ・職員間の連携・協働 ・福祉制度の活用と専門機関との連携 まとめのレポート(小テスト) ・これまでに学修した知識の定着の確認 [課題(復習)]この科目での学びを振り返り、各自の保育等の現場でどのように生かしていくかを考えレポートにまとめる。(1~2h)
時間外での学修	事前にテキストを読み、自分なりの考えをまとめておきましょう。また、参考となる本や雑誌など進んで読むようにしましょう。授業後は、保育の場で、子ども達とどのように関わることができるのかをイメージしてみましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15~30時間】
受講学生へのメッセージ	障がいがあってもなくても子どもの育ちを促す保育士は、子どもたち一人ひとりを十分に理解することが求められます。障がいの特徴を学ぶことで、子どもたちの見方を広げ、子どもたちが楽しくのびのびと充実した生活を送ることができる保育をめざしましょう。オフィスアワーは、講義後の教室での10分間、または、毎週火曜日の研究室(H203)での12:15~12:45です。

【1C3B218】保育入門演習		幼児教育学科		1年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	大橋 淳子・名和 孝浩						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	大橋：幼稚園教諭・保育士28年						
授業方法	この授業は、1「手遊び」2「読み聞かせ」3「現場体験」の3つを体験します。「手遊び」は、様々な手遊びを楽しむ保育者と子ども役を交替しながら全員の前で演じる体験を積み重ねます。「読み聞かせ」は年齢や発達段階に合った絵本の選び方や読み方を学習し、グループごとにお話を組み立て発表します。「現場体験」は保育現場における子どもの生活を見学し、子どもの実態や遊びの様子を理解します。						
到達目標	知識・理解	幼児の実態を理解し、幼児になったつもりで手遊び・読み聞かせ等を仲間と共に楽しむことができる。					
	思考・判断・表現	豊かな感性と表現力を養い、理想の保育者像を常に描き、研鑽に努めることができる。					
	技能	季節や年齢に応じた手遊び・読み聞かせ等を子ども達に楽しく伝える保育技術を身につけることができる。					
	関心・意欲・態度	グループ発表や表現活動を通して、コミュニケーション能力を身につけ、誰とでも柔軟に関わることができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	保育所・幼稚園の集団生活の実際を知り、生活では欠かせない「手遊び」「読み聞かせ」等の活用方法を体験を通して学びます。また、日常生活の中で、絵本の読み聞かせや手遊び自然な流れで演じる技術もマスターし、子どもの心をつかむことのできる保育者としての感性や資質の向上を図ります。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	演習・見学態度		-	-	-	30	30
	達成度		-	10	20	-	30
	発表・見学内容		10	10	10	-	30
	レポート		10	-	-	-	10
合計(点)		20	20	30	30	100	
評価の特記事項	この科目は1手遊び、2読み聞かせ・すばなし、3現場体験を履修した上で合算し、単位数1単位の評価とします。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	前回の授業内容あるいは授業の最後に学んだことを確認し自己課題のまとめを作成します。						
課題に対するフィードバック	手遊びや読み聞かせの練習・発表に対する評価や助言を行う。現場体験は各自の体験を振り返り、レポートに対する添削やコメントを行う。						
テキスト							
参考書・教材	必要に応じてプリントを配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	<b>【オリエンテーション】</b> 授業内容に関するガイダンスと各課題の説明 1: 手遊び <ul style="list-style-type: none"> <li>・手遊びの意義と効果について考える。</li> <li>・自己紹介と名前呼び遊び</li> </ul> [準備・課題]手遊びの意義について記録にまとめる。(1h) 2: 読み聞かせ <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもにとって絵本とは何かを考える。</li> <li>・子どもの頃に読んでもらった経験の中から読み聞かせのもつ意味を考える。</li> <li>・話し方や表情、演じ方のポイントを修得する。</li> </ul> [準備・課題]読み聞かせの中で育てたいもの別に分類しそれぞれ代表的な絵本を2冊ずつ選ぶ好きな絵本を練習する。(1h) 3: 現場体験 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ガイダンス、現場見学の留意点・マナーについて確認</li> </ul> [準備・課題]現場見学の視点や特に知りたいことなどをまとめておく。(2h)						
2	<b>【手遊び】第1回</b> 0～2歳児の手遊びの学修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1対1の触れ合い遊びや古くから伝わる手遊びの技術を習得し、自分なりの演じ方を身につける。</li> </ul> [準備・課題]次回発表できるように、今日学んだ手遊びの内1つを練習しておく。(1h)						
3	<b>【手遊び】第2回</b> 0～2歳児の手遊びの発表 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1対1の触れ合い遊びや古くから伝わる手遊びの技術を習得し、自分なりの演じ方で発表する。</li> </ul> [準備・課題]発表した内容をまとめる。(1h)						
4	<b>【手遊び】第3回</b> 3～5歳児の手遊びの学修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・以上児向けの手遊びのポイントをつかみ、手遊びの技術を習得し自分なりの演じ方を身につける。</li> </ul> [準備・課題]学習の成果を保育者になったつもりで個人発表できるように、今までに学んだ手遊びの内1つを練習しておく。(1h)						
5	<b>【手遊び】第4回</b> 3～5歳児の手遊びの発表 <ul style="list-style-type: none"> <li>・以上児向けの手遊びの技術を習得し、自分なりの演じ方で発表する。</li> <li>・基本の手遊びを年齢に応じて発展させる。(個人発表)</li> </ul> [準備・課題]学習の成果を保育者になったつもりで個人発表できるように、今までに学んだ手遊びの内1つを練習しておく。(1h)						
6	<b>【読み聞かせ・すばなし】第1回</b> 絵本の読み聞かせの学修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・0～2歳児への読み聞かせの学修</li> <li>・1対1のふれあいを大切にしながら、自分のよさを生かした話し方や接し方を身につける。</li> </ul> [準備・課題]3～5歳児向けの絵本を2冊選び、読み聞かせの練習をする。(1h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
7	<p>【読み聞かせ・すばなし】第2回 読み聞かせの発表 3～5歳児への読み聞かせの学修 ・大勢の前での話し方や伝えたいこと、育てたいこと等のポイントを修得する。 [準備・課題]大型絵本・紙芝居を準備し発表ができるように効果的な構成や演じ方を練習する。(1h)</p>
8	<p>【読み聞かせ・すばなし】第3回 大型絵本の読み聞かせ・紙芝居の学修 それぞれの読み聞かせのポイントを理解して、伝えたいことを明確にもちながら、効果的な構成や演じ方を練習する。(年齢に即した内容、語り方や演じ方、表情や発展遊びなど) [準備・課題]効果的な構成や演じ方をまとめる。(1h)</p>
9	<p>【読み聞かせ・すばなし】第4回 すばなしの学修 すばなしの意義、心をつかむすばなしの実践のポイントを習得する。 (年齢に即した内容、語り方や演じ方、表情など) [準備・課題]年齢を設定し、すばなしの基礎を理解して効果的な話し方を練習する。(1h)</p>
10	<p>【現場体験】第1回 ガイダンス ・大垣市立北幼保園の見学の意義、観察の留意点について学ぶ。 (見学グループ、クラス決め) [準備・課題]観察記録の整理(2h)</p>
11	<p>【現場体験】第2回 保育記録について学ぶ ・保育記録とは何か、また記録の作成方法や意義について学ぶ。 [準備・課題]保育記録の作成方法についてまとめる(1h)</p>
12	<p>【現場体験】第3回 *大垣市立北幼保園(1回目) 大垣市立北幼保園の見学、観察 園長先生の講話、各クラスに分かれて観察する。 [準備・課題]観察記録の整理(2h)</p>
13	<p>【現場体験】第4回 保育記録の作成 ・園見学の反省 ・観察から気付いたり学んだりしたことを記録する方法を学ぶ。 [準備・課題]保育記録の作成(1h)</p>
14	<p>【現場体験】第4回 *大垣市立北幼保園(2回目) 大垣市立北幼保園の見学、観察 反省をもとに各自ねらいをもち観察する。 [準備・課題]観察記録の整理(2h)</p>
15	<p>【現場体験】第5回目 保育記録の作成 ・各自が体験した保育現場について気付いた点について話し合い発表する。 ・作成した記録を学生同士で相互チェックする。 [準備・課題]保育記録の作成(1h)</p>
時間外での学修	<p>見学で得た子どもの実態について振り返り、子どもの姿に応じた手遊びや読み聞かせなどが行えるようにしてください。毎回学習した手遊び、読み聞かせ等は、次回までに自分のものにし、人前で演じることができるよう、各自復習しておいてください。わからない時は、聞きにきてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：20時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>積極的に参加し、子どもの実態の把握と、豊かな表情、自分なりの表現力を身につけてください。オフィスアワーは各教員の時間を確認してください。</p>

【1C3S219】保育技術演習		幼児教育学科		1年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	大橋 淳子・立崎 博則・名和 孝浩					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	大橋：幼稚園教諭・保育士28年					
授業方法	この授業は、1、「スケッチブックシアター」、2、「パネルシアター」、の2つを、5コマずつ体験（計画・作成・演じ方）を行います。制作後、発表を通じて乳幼児に向けて演じる楽しさを味わい、保育教材の活用の仕方を学びます。					
到達目標	知識・理解	自分の作品や発表を振り返り、ねらいや課題を説明することができる。				
	思考・判断・表現	年齢や発達、ねらいに合わせた保育教材を制作し、教材活用をした表現を学ぶことができる。				
	技能	保育場面にふさわしい保育教材を発達やねらいに合わせて制作、演じることができる。				
	関心・意欲・態度	意欲的に自分の保育技術の向上に努める。他者の発表から自分の良さと課題を振り返ることができる。				
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	保育所・幼稚園等で行うシアター表現の活用方法を保育教材制作と発表から活用方法を学びます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	作品	-	10	20	10	40
	ワークシート	10	10	-	-	20
	発表	10	-	20	10	40
	合計(点)	20	20	40	20	100
評価の特記事項						
ICT活用	作品などをGoogleフォームに提出する。					
アクティブ・ラーニングの活用	演習等を通じて、他学生の保育表現に触れることで、自分自身のシアターの工夫や仕上げ方、表現方法を養います。					
課題に対するフィードバック	発表時にコメントをします。					
テキスト						
参考書・教材	必要に応じて資料を配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	第1週・オリエンテーション ガイダンス（この授業で学ぶこと、心構え、進め方等） パネルシアター、スケッチブックシアター、発表について ・スケッチブックシアター制作計画 [課題(準備)]様々なアイデアを調べる。(1h)					
2	スケッチブックシアター制作 [課題(準備)]道具や材料を用意し制作環境を充実させる。(1h)					
3	スケッチブックシアター制作 [課題(準備)]道具や材料を用意し制作環境を充実させる。(1h)					
4	スケッチブックシアター制作 と中間発表 [課題(準備)]中間発表に向けて制作を進める。(1h)					
5	スケッチブックシアター制作 [課題(準備)]他者に伝わる発表方法の工夫をまとめ練習する。(1h)					
6	スケッチブックシアターの発表に向けての準備とまとめ [課題(準備)]保育教材を完成させ、発表できるようにする。(1-2h)					
7	スケッチブックシアター発表（作成したスケッチブックシアターの発表と自己評価） [課題(準備)]他者の発表から自分の良さと課題をまとめ、再構築する(1-2h)					
8	スケッチブックシアター発表 とまとめ（再構築したものの発表からスケッチブックシアターの活用についてまとめる） [課題(準備)]他者に伝わる表現方法の工夫をまとめ練習をする(1h)					
9	パネルシアター制作計画 [課題(準備)]インターネットや文献からパネルシアターについて調べる(1h)					
10	パネルシアター制作 [課題(準備)]制作に必要な教材を準備する(1h)					
11	パネルシアター制作 [課題(準備)]進捗に合わせて教材を準備する(1h)					
12	パネルシアター制作と中間発表 [課題(準備)]進捗に合わせて教材を準備する(1h)					
13	パネルシアター発表準備とまとめ [課題(準備)]保育教材を完成させ、発表できるようにする(1-2h)					
14	パネルシアター発表（作成したパネルシアターの発表と自己評価） [課題(準備)]他者の発表から自分の良さと課題をまとめ、再構築する(1-2h)					
15	パネルシアター発表 とまとめ（再構築したものの発表からパネルシアターの活用についてまとめる） [課題(準備)]シアターの活用方法や表現方法についてまとめる(1h)					
時間外での学修	「スケッチブックシアター」は、実習やボランティア活動等で繰り返し活用して技術を磨きましょう。 「パネルシアター」は、実習や実務研修に利用できるように、遊び方、留意点等を各自ノートに整理しておきましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:各分野5時間程度計15時間です。】					
受講学生へのメッセージ	「パネルシアター」「スケッチブックシアター」では様々な保育技術表現を調べ、自身の表現方法に活用しましょう。質問等は、授業で伝達する各教員のオフィスアワーを活用ください。					

【1C3B221】幼児と健康		幼児教育学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	垣添 忠厚						
資格・制限等	幼稚園教諭二種免許・保育士資格必修						
実務家教員	特別支援学校教諭(18年)小学校(5年)						
授業方法	主に実技を中心とした演習となります。テーマによって、個人・グループ活動を行いながら、授業展開していきます。この授業で使用するテキストの著者である本学客員教授佐藤弘道先生を授業に迎え助言いただく機会を予定しています。						
到達目標	知識・理解	乳幼児期の健康(発達・生活習慣等)について理解することができる。					
	思考・判断・表現	理想の保育者像を常に描き、創造的な身体活動を行うことができる。					
	技能	感じたことや考えたことを自分なりに表現し、発表することができる。					
	関心・意欲・態度	豊かな感性をもち、積極的に課題に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	幼児期に必要な健康な心と体を育て、安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識や技能を身につけます。特に幼児の発達運動等において、幼児期の特徴や意義について学び、運動を実施することで健康に繋がる実践的な取り組みを中心とした演習となります。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート(毎回)		20	10	-	-	30
	自己評価(毎回)		-	10	10	10	30
	課題レポート		10	10	-	-	20
	受講態度		-	-	10	10	20
合計(点)		30	30	20	20	100	
評価の特記事項	毎回提出するレポートと自己評価の内容を基に評価します。発表は、授業内において設定した発表の内容を総合的に評価します。受講態度は、取り組み姿勢を主に評価します。						
ICT活用	タブレット機器を活用して、自己の運動動作の分析を行います。						
アクティブ・ラーニングの活用	グループワークで学修した遊びの発展について考え、実践するようにします。						
課題に対するフィードバック	毎回のレポートの内容をまとめ、次時の授業で振り返りを行います。						
テキスト	『ひろみちお兄さんの運動遊び』佐藤弘道 世界文化社 ISBN:978-4-418-14717-5						
参考書・教材	幼稚園教育要領解説、幼児体育、保育内容(健康)、資料は必要に応じて配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	(10/3:K101)乳幼児期の健康課題(乳幼児期の健康について学び、健康体操を実施する) 【課題(復習)】健康体操について調べ、乳幼児期の健康についてまとめる。(1h~2h)						
2	(10/10:K101)乳幼児の発達の特徴(乳幼児期の身体的・生理的機能の発達について学び、発達段階に沿った運動を実施する) 【課題(復習)】発達段階に沿った運動の内容をまとめる。(1h~2h)						
3	(10/17:K101)乳幼児の安全管理(乳幼児の事故の状況を知り、安全管理と安全教育の基礎を学ぶ) 【課題(復習)】安全管理についてまとめる。(1h~2h)						
4	(10/24:K201)乳幼児期の応急処置(乳幼児の怪我の特徴と基本的な応急処置を学ぶ) 【課題(復習)】乳幼児期の怪我について調べ、応急処置の方法を身につける。(1h~2h)						
5	(10/31:K101)幼児期の運動発達(走る、投げる、跳ぶ運動の発達段階について学び、乳幼児期に必要な運動を考える) 【課題(復習)】運動発達について調べ、乳幼児期に必要な運動についてまとめる。(1h~2h)						
6	(11/7:K101)あそびから運動へ 模倣あそび(まねっこ、リズムに合わせて遊ぶことができる運動を実施する) 【課題(復習)】配布された資料に実施内容をまとめる。(1h~2h)						
7	(11/14:K101)あそびから運動へ からだあそび1(からだを使って遊ぶことができる運動を実施する) 【課題(復習)】配布された資料に実施内容をまとめる。(1h~2h)						
8	(11/21:K101)あそびから運動へ からだあそび2(からだを使って遊ぶことができる運動を実施する) 【課題(復習)】配布された資料に実施内容をまとめる。(1h~2h)						
9	(11/28:K101)あそびから運動へ 用具を使ったあそび1(ボールを使って遊ぶことができる運動を実施する) 【課題(復習)】配布された資料に実施内容をまとめる。(1h~2h)						
10	(12/5:K101)あそびから運動へ 用具を使ったあそび2(新聞を使って遊ぶことができる運動を実施する) 【課題(復習)】配布された資料に実施内容をまとめる。(1h~2h)						
11	(12/12:K101)あそびから運動へ 用具を使ったあそび3(ロープ、フープを使って遊ぶことができる運動を実施する) 【課題(復習)】配布された資料に実施内容をまとめる。(1h~2h)						
12	(12/19:K101)あそびから運動へ 運動遊具をつかったあそび(マットを使って遊ぶことができる運動を実施する) 【課題(復習)】配布された資料に実施内容をまとめる。(1h~2h)						
13	(12/26:A301)日常生活における運動(園生活の中での健康への配慮について考え、乳幼児の健康的な生活について考える) 【課題(復習)】園生活において健康に配慮された活動についてまとめる(1h~2h)						
14	(1/9:H103)子どもの病気の予防と睡眠(乳幼児の病気の特徴を知り、その予防について学ぶ。また乳幼児の睡眠の特徴を調べ、生活習慣の基礎となる睡眠の定着について考える) 【課題(復習)】病気の予防についてまとめる。また、正しい睡眠のとり方について実践し結果をまとめる。(1h~2h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
15	(1/23:A301*1/16休講分の補講)活動計画案の作成（授業内で学んだ運動遊びをアレンジし、2月の保育実習を想定した活動を立案する） 【課題（予習）】テキストや授業内で配布したプリントを参考に、計画したい運動遊びを考えておく。 (1h~2h)
時間外での学修	普段の生活の中で、健康に関する情報を収集してください。また、子ども（特に乳幼児）の特徴的な身体活動を下記に参加した保育ボランティアの実践からまとめておいてください。発表に向けて準備や練習を十分に行ってください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】
受講学生へのメッセージ	自分自身が楽しく精一杯に活動ができるように、毎時間の活動に集中してください。 オフィスアワーは研究室（H203:H号館2F）で毎週金曜日12:15～12:45です。

【1C3B223】幼児と言葉		幼児教育学科		1年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	宮本 絢子					
資格・制限等	幼稚園教諭二種免許・保育士資格必修					
実務家教員	保育士10年、市役所保育主管課5年					
授業方法	演習					
到達目標	知識・理解	言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解したり、幼児の発達における児童文化財の意義について理解する				
	思考・判断・表現	言葉の楽しさや美しさ、言葉の感覚を豊かにする実践、児童文化財について、基礎的な知識を身につける				
	技能	言葉あそびや児童文化財（絵本、紙芝居）に多く触れ、知識を豊かにするとともに、読み聞かせやおはなし会を実践することができる				
	関心・意欲・態度	幼児の言葉に関心を持つ豊かな感性と教養を養い、常に研鑽に努めることができる				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	子どもたちは、遊びを中心とした活動や保育者との関わりをとおして自ら言葉を獲得していきます。保育者として、子どもが豊かな言葉を身につける大切さと、乳幼児期の言葉の発達について理解するとともに、子どもが自分の気持ちを言葉で表現できるよう、言葉遊びや児童文化財等の教材研究やグループワークや発表をとおして児童文化財の具体的な知識と活用技術を実践的に学びます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	受講参加態度	-	10	-	5	15
	発表の姿	-	10	20	5	35
	授業への姿勢	15	-	-	15	30
	レポート	15	-	-	5	20
合計(点)	30	20	20	30	100	
評価の特記事項	絵本や紙芝居など授業に必要なものを忘れずに準備できているか、提出物の提出期限を守ることができているか、についても評価に含みます。					
I C T活用						
アクティブ・ラーニングの活用	グループワーク、発表など					
課題に対するフィードバック	授業の最初に、前回のレポート（振り返りシート）をクラスで共有します。					
テキスト	『保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」』馬見塚昭久 / 小倉直子 ミネルヴァ書房 (2,400円) ISBN:978-4-623-09251-2 保育内容「言葉」の指導法（後期）の授業でも同じテキストを使用します。					
参考書・教材	「保育所保育指針解説」フレーベル館 「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」フレーベル館 参考書：「こどはと表現力を育む児童文化」「保育者のための言語表現の技術」萌文書林 その他、授業中に紹介します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	授業のオリエンテーション、進め方、評価の説明して授業の概要を知る。 [課題(復習・準備)] 今日の資料を整理し、授業概要について理解を深める。また、次回グループ内で紹介する絵本・紙芝居を準備する。(1h)					
2	乳幼児期の言葉をめぐる現代的動向 [課題(復習・準備)] 今日の資料を整理し、ポイントをまとめる。また、次回グループ内で紹介する絵本・紙芝居を準備する。(1h)					
3	乳幼児期の言葉の発達 : 乳児は言葉をどのように獲得するのかを学ぶ。 [課題(復習・準備)] 今日の資料を整理し、ポイントをまとめる。また、次回グループ内で紹介する絵本・紙芝居を準備する。(1h)					
4	乳幼児期の言葉の発達 : 1~2歳児の子どもは言葉をどのように獲得するのかを学ぶ。 [課題(復習・準備)] 今日の資料を整理し、ポイントをまとめる。また、次回グループ内で紹介する絵本・紙芝居を準備する。(1h)					
5	乳幼児期の言葉の発達 : 3~5歳児の子どもは言葉をどのように獲得するのかを学ぶ。 [課題(復習・準備)] 今日の資料を整理し、ポイントをまとめる。また、次回グループ内で紹介する絵本・紙芝居を準備する。(1h)					
6	言葉に対する感覚を豊かにする実践 : 言葉遊びのいろいろと保育への取り入れ方について学ぶ。 [課題(復習・準備)] 今日の資料を整理し、ポイントをまとめる。また、次回グループ内で紹介する絵本・紙芝居を準備する。(1h)					
7	言葉に対する感覚を豊かにする実践 : 子どもと楽しむ「言葉遊び」を実践する。 [課題(復習・準備)] 今日の資料を整理し、ポイントをまとめる。また、次回グループ内で紹介する絵本・紙芝居を準備する。(1h)					
8	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財 : 子どもにとっての児童文化財の意義を知る。 [課題(復習・準備)] 授業のポイントをまとめ、理解を深める。また、次回グループ内で紹介する絵本・紙芝居を準備する。(1h)					
9	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財 (絵本・紙芝居) の実際 : 絵本の種類や紙芝居の保育への取り入れ方について学ぶ。 [課題(復習・準備)] 授業のポイントをまとめ、理解を深める。また、次回グループ内で紹介する絵本・紙芝居を準備する。(1h)					
10	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた活動の実践 : グループで子どもと一緒に絵本や紙芝居を楽しむ活動を想定したおはなし会の計画を立てる。(大学の図書館を利用) [課題] おはなし会の計画を完成させ、おはなし会のポスターを作る。(1h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
11	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた活動の実践 : グループで次回のおはなし会の発表に向けて練習をする。 [課題(準備)] 次回の発表に必要な絵本や紙芝居など必要なものを準備し、グループで発表に向けて練習する。(1h)
12	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた活動の実践 : おはなし会をグループごとに発表する。 [課題(準備)] 次回の発表に向けてグループで発表の反省点を話し合い、練習をする。(1h)
13	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた活動の実践 : グループで前回のおはなし会の振り返りを行い、次回の発表に向けて練習をする。 [課題(準備)] 必要な絵本や紙芝居など必要なものを準備し、グループで発表に向けて練習する。(1h)
14	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた活動の実践 : おはなし会をグループごとに発表する。 [課題(復習)] 発表後、グループで話し合い、評価・反省等を記録シートに記入する。(1h)
15	全体のまとめ [課題(復習)] これまでの授業で配布した資料等をまとめながら、振り返りを行う。(1h)
時間外での学修	日頃から、大学の図書館を積極的に利用したり、地域の図書館のおはなし会に参加するなど、絵本や紙芝居を中心にした児童文化財に興味、関心をもって触れる努力をしましょう。 【この科目に求める望ましい授業時間外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	お膝で絵本を読んでもらっている子どもたちを観察してみましょう。子どもたちは、絵本の内容だけでなく「読んでもらうこと」も楽しんでます。読み手との信頼関係を基盤にした幸せな時間を共有するという経験は、子どもたちの情緒の安定につながります。みなさんが、乳幼児期に読んでもらった思い出の絵本もぜひ紹介してくださいね。オフィスアワー：授業内に指示します。

【1C3B224】音楽・基礎		幼児教育学科		1年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	光井 恵子・小川 寿実子・竹内 美樹・日比 裕美子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業方法	二つのグループに分け、クラス授業とピアノの個人レッスン(ピアノ実技)を行います。グループ毎に教室が異なりますので、しっかり確認して受講してください。						
到達目標	知識・理解	教育者、保育者になるために必要な音楽基礎知識を理解し説明することができる。					
	思考・判断・表現	音楽の楽しさを表現することができる。					
	技能	保育におけるピアノ演奏技術の基本を身につける。					
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら積極的に課題に取り組むことができる					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	教育者、保育者になるために必要な音楽を基礎から学び、幅広い音楽性や表現する力を身に付けていきます。クラス授業では教育や保育に必要な音楽理論を中心に学び、個人レッスンでは各自の進度に応じてピアノの基礎技術を学びます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	確認テスト		20	-	-	-	20
	課題・レポート		-	15	-	-	15
	発表		-	-	20	-	20
	達成度		10	5	-	-	15
	受講態度		-	-	-	30	30
合計(点)		30	20	20	30	100	
評価の特記事項	クラス授業：確認テスト、課題・レポート、受講態度で評価をします。 ピアノ実技：発表、達成度、受講態度で評価します。 受講態度は、予習・復習も含めた学修への取り組み状況、提出物などから総合的に評価します。3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	グループワーク						
課題に対するフィードバック	クラス授業：毎回課題の質疑については授業内でフィードバックしていきます。また確認テストやレポートは添削を行い、必要に応じてコメントをしていきます。 個人レッスン：毎回授業時に課題の確認を行い、個々に応じた練習方法を示していきます。						
テキスト	『(A)：改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』神原雅之 鈴木恵津子 教育芸術社 ISBN:9784877888220 『(B)：教職課程のための 大学ピアノ教本 バイエルとツェルニーによる展開』大学教育音楽研究グループ 教育芸術社(1,100円) ISBN:9784905700333 (A)：全受講者購入して下さい。 (B)：『バイエル教則本』終了者、または終了程度の方は、各自のレベルに合わせた楽譜(各自所有の楽譜等)を持参しレッスンをを行います。そのため(B)の楽譜は購入する必要がありません。						
参考書・教材	『ブルクミュラー25の練習曲』『ソナチネアルバム1』等 必要な資料は授業で配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	クラス授業：楽譜の仕組みについて(1) 譜表、音名 [課題・準備] 譜表、音名を覚え、ピアノ練習に活用する 個人レッスン：クラス分けとミーティング 各自のレベルに合わせたレッスン(選曲と今後の方針) [課題・準備] 次の授業でのレッスン曲を練習する(1~2h)						
2	クラス授業：楽譜の仕組みについて(2) 音符、休符、拍子、小節 [課題・準備] 音符や休符の種類や名前を覚え、ピアノ練習に活用する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン(正確な譜読み、さまざまな表現法等) [課題・準備] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習(1~2h)						
3	クラス授業：音楽の仕組みについて(1) [音程] 単音程 2・3度音程 [課題・準備] 学習した内容を復習し、音程は鍵盤上で確認する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン(正確な譜読み、さまざまな表現法等) [課題・準備] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習(1~2h)						
4	クラス授業：音楽の仕組みについて(2) [音程] 単音程 6・7度音程 [課題・準備] 学習した内容を復習し、音程は鍵盤上で確認する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン(正確な譜読み、さまざまな表現法等) [課題・準備] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習(1~2h)						
5	クラス授業：音楽の仕組みについて(3) [音程] 単音程 1・4・5・8度音程 [課題・準備] 学習した内容を復習し、音程は鍵盤上で確認する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン(正確な譜読み、さまざまな表現法等) [課題・準備] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習(1~2h)						
6	クラス授業：音楽の仕組みについて(4) [音程] 派生音を含む音程と複音程音楽の仕組みについて グループワークをして修得した内容を確認しあう [課題・準備] 学習した内容を復習し、音程は鍵盤上で確認する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン(正確な譜読み、さまざまな表現法等) [課題・準備] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習(1~2h)						
7	クラス授業：確認テスト [課題・準備] 学習した内容を復習する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン(正確な譜読み、さまざまな表現法等) [課題・準備] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習(1~2h)						
8	クラス授業：音楽の仕組みについて(5) 音階 [課題・準備] 学習した内容を復習し、各調の音階を鍵盤上で確認する 個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン(正確な譜読み、さまざまな表現法等) [課題・準備] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習(1~2h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
9	<p>クラス授業：音楽の仕組みについて（6）和音の種類            [課題・準備] 学習した内容を復習し、和音を鍵盤上で確認する            個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等）            [課題・準備] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）</p>
10	<p>クラス授業：音楽の仕組みについて（7）和音記号            [課題・準備] 学習した内容を復習し、和音を鍵盤上で確認する            個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等）            [課題・準備] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）</p>
11	<p>クラス授業：和音とコードの関係            [課題・準備] 学習した内容を復習し、コードを鍵盤上で確認する            個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等）            [課題・準備] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）</p>
12	<p>クラス授業：基本的なコード            [課題・準備] 学習した内容を復習し、コードを鍵盤上で確認する            個人レッスン：各自のレベルに合わせたレッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等）            [課題・準備] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）</p>
13	<p>クラス授業：コードネームの見分け方            [課題・準備] 学習した内容を復習し、コードを鍵盤上で確認する            個人レッスン：各自のレベルに合わせた個人レッスン（発表に向けて課題曲の練習）            [課題・準備] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習、発表曲の練習（1～2h）</p>
14	<p>クラス授業：確認テスト            [課題・準備] 学習した内容を復習する            ピアノ実技：各自のレベルに合わせたレッスン（発表の練習）            [課題・準備] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習、発表曲の練習（1～2h）</p>
15	<p>クラス授業：前期に学修した内容の総復習            [課題・準備] 総合的に復習し、前期全体のまとめをする            個人レッスン：発表            [課題・準備] 発表曲の復習（1～2h）</p>
時間外での学修	<p>教育者、保育者として子どもたちを指導するために必要な音楽の基礎力を身につけていきますので、ピアノの練習は毎日行い、積極的に予習・復習に取り組んでください。            【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15～30時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>音楽をしっかり学び、その技術・技能を身につけることは、保育者として指導力に大きく関わります。体調を常に整えて、遅刻、欠席しないように心がけましょう。爪はしっかり切っておいてください。            オフィスアワーは研究室（H204：H号館2F）で毎週木曜日の16：10から16：40です。または各レッスン室で授業終了後に行います。</p>

【1C3S225】幼児と音楽表現		幼児教育学科		1年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	光井 恵子・小川 寿実子・春日 有貴江・竹内 美樹					
資格・制限等	幼稚園教諭二種免許・保育士資格必修					
実務家教員						
授業方法	クラス授業では、領域「表現」の意義や内容を考え、保育現場での様々な音楽・身体表現活動の方法を学びながら自身の感性を高めていきます。また表現活動を展開させるための知識技能を個人レッスンで身に付けていきます。					
到達目標	知識・理解	幼児の表現の姿やその発達を理解することができる。				
	思考・判断・表現	様々な表現（身体・音楽）の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。				
	技能	様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。				
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら豊かな感性をもち、積極的に課題に取り組むことができる。				
授業内容	領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境構成について実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身に付けます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	発表	10	25	20	-	55
	レポート	10	5	-	-	15
	受講態度	-	-	-	30	30
	合計(点)	20	30	20	30	100
	評価の特記事項	学びの過程は受講態度(30%)、学びの成果は発表(55%)とレポート(15%)で評価していきます。				
ICT活用	iPadのアプリを使用した活動をしていきます。					
アクティブ・ラーニングの活用	グループによる活動や発表を取り入れます。					
課題に対するフィードバック	クラス授業：課題の質疑については授業内でフィードバックしていきます。 個人レッスン：授業時に課題の確認を行い、個々に応じた練習方法を提示していきます。					
テキスト	『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』神原雅之、鈴木恵津子 教育芸術社 ISBN:9784877888220 1年前期(音楽・基礎)の授業で使用した教科書を引き続き使用していきます。					
参考書・教材	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領、必要に応じて資料を配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	クラス授業：領域「表現」のねらい及び内容の理解と知識技能の修得 ・幼児期の遊びや生活での領域「表現」における「身体・音楽表現」の位置付けについて理解するために、自分自身の表現を振り返りとともに、表現の源を考える。 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習(1~2h)					
2	クラス授業：「表現の源に出会う」の体験と知識技能の修得 ・表現の源に出会い、「感じる・気付く・考える」体験を通して、表現の生成過程を分析的に捉え、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)					
3	クラス授業：「自然と環境との対話」の体験と知識技能の修得 ・身近な自然やその素材の特性に触れ、感じる、みる、聴く、楽しむことを通してイメージを豊かにする。 また、身体の諸感覚を通して環境と対話し感受性(気付き・思考・イメージ)を豊かにし、環境と表現の関りについて理解する。 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)					
4	クラス授業：「素材との対話」の体験と知識技能の修得 ・身近な素材に身体の諸感覚を通じて触れ、その特性を生かして身体・音楽表現の様々な表現体験をし、幼児の表現活動の展開する可能性を探る。 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)					
5	クラス授業：「生活との対話」の体験と知識技能の修得 ・多様性に着目し、身近な遊びや生活に心が動いたことをもとに、香りや味わいなどのイメージを持ちながら身体・音楽などで表現する。 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)					
6	クラス授業：「他者との対話」の体験と知識技能の修得 ・表現は対象への呼びかけと応答でコミュニケーションとして成立することを体験し、表現の生成する過程を分析的に捉え、楽しさを生み出す要因についても分析する。 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)					
7	クラス授業：「幼児の表現」の理解と知識技能の修得 ・幼児の表現行為とは何かを考えるため、幼児の表現活動を鑑賞する。幼児の素朴な様々な表現を見出し、受け止め、共感しながらその行為を分析する。 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
8	<p>クラス授業：「文化との対話」の体験と知識技能の修得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な表現方法を知るために、文化的な表現活動の作品を鑑賞し、幼児の表現活動を支えるための感性を豊かにする。</li> </ul> <p>個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。            [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)</p>
9	<p>クラス授業：音楽遊びの視点から「学び」を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鍵盤楽器を用いて音の響きやハーモニーの美しさを体験しながら、様々な鍵盤楽器の奏法を身に付ける。</li> </ul> <p>個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。            [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)</p>
10	<p>クラス授業：音楽遊びの視点から「学び」を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鍵盤楽器を用いて音の響きやハーモニーの美しさを体験しながら、実践的な展開例を考える。</li> </ul> <p>個人レッスン：表現活動を展開させるための実践的な表現方法を考える。            [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)</p>
11	<p>クラス授業：音楽遊びの視点から「学び」を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な楽器を用いて幼児の発達に合わせたリズム遊びやアンサンブルの展開を身に付ける。</li> </ul> <p>個人レッスン：表現活動を展開させるための実践的な表現方法を考える。            [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)</p>
12	<p>クラス授業：音楽遊びの視点から「学び」を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な楽器を用いて幼児の発達に合わせたリズム遊びやアンサンブルの展開を考える。</li> </ul> <p>個人レッスン：表現活動を展開させるための実践的な表現方法を考える。            [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習(1~2h)</p>
13	<p>クラス授業：ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した具体的な表現活動をグループで考える。</li> </ul> <p>個人レッスン：表現活動を展開させるための実践的な表現方法の発表をするために準備をする。            [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、発表に向けての練習(1~2h)</p>
14	<p>クラス授業：ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した具体的な表現活動をグループで考え、発表作品を作る。</li> </ul> <p>個人レッスン：発表に向けて仕上げをする。            [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、発表に向けての練習(1~2h)</p>
15	<p>クラス授業：ICTの活用(発表)とまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した表現活動を発表し、学修のまとめをする。</li> </ul> <p>個人レッスン：発表            [課題(予習・復習)]学修した内容の確認、発表の振り返り(1~2h)</p>
時間外での学修	<p>保育者として子どもたちを指導するために必要な音楽の基礎力を身に付けていきますので、毎日練習を行い、積極的に予習、復習に取り組み、弾き歌いできるレパートリー曲を増やしてください。            質問等があれば、研究室(A307:A号館3F)へきてください。            【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>表現活動するにはまずは自分自身が感性を豊かにすることです。常に五感を意識して生活をしましょう。また、積極的に学ぶ姿勢を最後まで持ち続け、保育技術を高めるための努力をしてください。            オフィスアワーは研究室(H204:H号館2F)で毎週木曜日16:10~16:40です。または各レッスン室で授業終了後に行います。</p>

【1C3B230】造形・基礎		幼児教育学科		1年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	立崎 博則						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業方法	制作活動の体験と、課題となる作品制作を通し、その学びをまとめる。						
到達目標	知識・理解	多様な創作活動を体験し、幼児の造形あそびや表現の位置付けについて説明できる。					
	思考・判断・表現	グループでの制作を通し、他者の考えや表現を受け止め共感し、協力し表現する重要性を説明できる。					
	技能	作ることを積極的に楽しみ、基礎的な知識・技能を用い表現ができる。					
	関心・意欲・態度	予習・復習・準備・片付けを積極的に行う。日々の生活の中で様々な美に対して関心を持ち、自らの好きだと感じる物を増やし、表現を楽しむことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	造形あそびや造形表現について、制作活動を通して基礎的な知識と技能を学ぶ。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	作品		-	20	10	-	30
	レポート		20	-	10	-	30
	ポートフォリオ		10	10	10	10	40
	合計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	授業で説明します。						
ICT活用	Googleフォームやポートフォリオサイトを使い、作品などのフィードバックを行います。						
アクティブ・ラーニングの活用	グループワーク						
課題に対するフィードバック	作品鑑賞をしコメントする時間をもちます。授業内でレポートなどのふりかえりを行います。						
テキスト	必要な資料は授業で配布します。						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション、授業説明、表現のはじまり [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、記録し自分の「好き」を増やしプリント課題に取り組む。(1~2h)						
2	造形表現の基礎 色について1 色相環を作ろう [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、他者とコミュニケーションをとることについて課題に取り組む。(1h)						
3	造形表現の基礎 色について2 色相環を使って表現しよう [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、他者とコミュニケーションをとることについて課題に取り組む。(1~2h)						
4	造形表現の基礎 形について1 形のリズム、組み合わせ [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、他者とコミュニケーションをとることについて課題に取り組む。(1h)						
5	形表現の基礎 形について2 形を紙に描写しよう [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、他者とコミュニケーションをとることについて課題に取り組む。(1h)						
6	見せるを考える 視覚教材について1 看板を作ろう [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、他者とコミュニケーションをとることについて課題に取り組む。(1h)						
7	見せるを考える 視覚教材について2 看板を作ろう [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、自分の表現の参考にすることについて課題に取り組む。(1h)						
8	見せるを考える 視覚教材について3 看板を作ろう [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、グループ制作の参考にすることについて課題に取り組む。(1h)						
9	見せるを考える 視覚教材について4 看板を作ろう [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、グループ制作の参考にすることについて課題に取り組む。(1h)						
10	造形表現実践 季節や行事の表現遊び1 [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、身近な素材での制作に応用する。(1h)						
11	造形表現実践 季節や行事の表現遊び2 [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、身近な素材での制作に応用する。(1h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
12	造形表現実践 季節や行事の表現遊び3 [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、身近な素材での制作に応用する。(1h)
13	造形表現実践 季節や行事の表現遊び4 [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、身近な素材での制作に応用する。(1h)
14	造形表現実践 季節や行事の表現遊び5 [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、身近な素材での制作に応用した作品展示について考える。(1h)
15	自分の制作を振り返る [課題(準備)]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、自分の制作について課題を行う。(1h)
時間外での学修	日々の生活の中で、アートやデザインについて主体的に興味を持って過ごし、自分の造形表現のヒントになる気づきをまとめてきてください。 定期的におりがみ課題を実施します。練習しいつでも披露できるよう準備してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	子ども達の「好き」(豊かな感性)と一緒に増やし、子ども達の「やってみたい！」(創造力)を支えることができるよう、造形表現の指導法について向き合ってください。 オフィスアワーは、研究室(H201)にて金曜日昼休みです。

【1C3S231】幼児と造形表現		幼児教育学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	立崎 博則						
資格・制限等	幼稚園教諭二種免許・保育士資格必修						
実務家教員							
授業方法	制作活動や発表の体験と、課題となる作品制作を通し、その学びをまとめる。						
到達目標	知識・理解	多様な創作活動を体験し、幼児の造形あそびや表現活動について自分の考えを説明することができる。					
	思考・判断・表現	発表や鑑賞を通して、共感や感動の表現に対する重要性を説明できる。					
	技能	作ることを積極的に楽しみ、様々な道具や素材を使い表現ができる。					
	関心・意欲・態度	予習・復習・準備・片付けを積極的に行う。日々の生活の中で様々な美に対して関心を持ち、自らの好きだと感じる物を増やし、表現を楽しむことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	造形あそびや造形表現について、制作活動を通して基礎的な知識と技能を使い、グループワークや魅せる(発表する・展示する)ことについて学ぶ。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	作品		-	20	10	-	30
	レポート		20	10	-	-	30
	ポートフォリオ		10	10	10	10	40
	合計(点)		30	40	20	10	100
評価の特記事項	授業で説明します。						
ICT活用	Googleフォームやポートフォリオサイトを使い、作品などのフィードバックを行います。						
アクティブ・ラーニングの活用	グループワーク						
課題に対するフィードバック	作品鑑賞をしコメントする時間をもちます。授業内でレポートなどのふりかえりを行います。						
テキスト	必要な資料は授業で配布します。						
参考書・教材	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領 必要に応じて配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション 授業説明 紙を使った素材あそび 制作概要の説明 [課題(準備)]実習時の自己紹介についてアイデアをまとめる。(1h)						
2	紙を使った表現 平面 [課題(準備)]実習時の自己紹介の作品について伝える工夫をまとめる。(1h)						
3	紙を使った表現 立体 [課題(準備)]実習時の自己紹介の作品について伝える工夫をまとめる。(1h)						
4	子ども達に見せるを考える 1 自己紹介のための作品制作 [課題(準備)]実習時の自己紹介の作品について伝える工夫をまとめる。(1h)						
5	子ども達に見せるを考える 2 自己紹介のための作品制作 [課題(準備)]実習時の自己紹介の作品について伝える工夫をまとめる。(1h)						
6	子ども達に見せるを考える 3 自己紹介のための作品制作 [課題(準備)]実習時の自己紹介の発表について伝える工夫をまとめる。(1h)						
7	子ども達に見せるを考える 4 自己紹介のための作品制作 [課題(準備)]グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)						
8	造形表現の基礎 構図について1 壁面制作 [課題(準備)]グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)						
9	造形表現の基礎 構図について2 壁面制作 [課題(準備)]グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)						
10	子ども達と作るを考える1 季節や行事の造形活動 [課題(準備)]グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)						
11	子ども達と作るを考える2 季節や行事の造形活動 [課題(準備)]グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)						
12	子ども達と作るを考える3 季節や行事の造形活動 [課題(準備)]グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
13	子ども達と作るを考える4 季節や行事の造形活動 【課題(準備)】グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)
14	子ども達と作るを考える5 季節や行事の造形活動 【課題(準備)】グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)
15	子ども達と作るを考える6 季節や行事の造形活動 自分の制作や活動の振り返り 【課題(準備)】グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1h)
時間外での学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに伝えるための工夫について日々の生活の中で考えるようにしましょう。また、グループでの表現や制作について授業外でもコミュニケーションをとることも意識するようにしてください。</li> <li>・定期的におりがみ課題を実施します。練習しいつでも披露できるよう準備してください。</li> </ul> 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	子ども達の「好き」(豊かな感性)と一緒に増やし、子ども達の「やってみたい!」(創造力)を支えることができるよう、造形表現の指導法について向き合ってください。 オフィスアワーは、オリエンテーションで説明します。

【1C4A404】保育実習 a		幼児教育学科		1年後期			
		2単位	選択	実習	90時間		
教員	名和 孝浩・宮本 絢子						
資格・制限等	保育士資格必修 / GPA並びに既修得科目による制限有り						
実務家教員	宮本：保育士10年、市役所保育主管課5年						
授業方法	保育実習園でのオリエンテーション及び実習園での保育実習を90時間行います。なお、保育実習を履修する際、本学または、実習園で決められた事項を遵守できない場合は、実習を中止することがあります。						
到達目標	知識・理解	保育所の基本的な役割や機能を体験的に理解する。また保育所の1日の流れに応じて実習園について理解する。					
	思考・判断・表現	子どもと共に活動しながら観察し、乳幼児理解に努める。またその記録を日誌にまとめる。					
	技能	全体的な計画および指導計画の意義を理解する。また保育を部分的に担当しながら保育技術を習得する。					
	関心・意欲・態度	積極的に保育に参加し、保育士の業務内容と職業倫理を理解し、向上心を持って取り組む。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実習日誌の評価		-	25	-	-	25
	実習園の評価		25	-	25	25	75
	合計(点)		25	25	25	25	100
評価の特記事項	実習園の評価は所定の評価票を基に評価します。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	日々、自分自身の実習のねらいに沿った保育実践を行い、保育記録を取ることで省察し、指導担当保育者との反省会等を踏まえて、次回の実践の改善を図る。PDCAサイクルに基づいた主体的な学修を行う。						
課題に対するフィードバック	実習園からの評価に基づいた実習課題のフィードバックを行う。						
テキスト	なし						
参考書・教材	『実習の手引』 『幼稚園・保育所実習・こども園パーフェクトガイド』わかば社 『保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領』 フレーベル館						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1～15	<p>保育所での保育実習（1週目 / 45時間）</p> <p>（1）観察を中心とした実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設の概要を知る。</li> <li>・園児と共に活動しながら観察し、乳幼児理解に努める。</li> <li>・保育所における保育の資料を収集し、記録をとる。</li> <li>・安全に対する配慮、環境整備、清掃の仕方を知る。</li> </ul> <p>保育所で保育実習（2週目 / 45時間）</p> <p>（2）補助的な参加・主体的な参加及び部分実習を中心とした実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導職員の補助的役割で保育に参加し、一日の流れを理解する。</li> <li>・保育計画・指導計画を理解する。</li> <li>・保育を部分的に担当しながら保育技術を習得する。</li> <li>・さまざまな幼児とコミュニケーションをとり、一人ひとりの発達への理解を深める。</li> <li>・園の指導を受けながら部分的な指導計画を作成し、それを実践して反省し、課題をつかむ。</li> <li>・園行事に参加し、行事のあり方について考える。</li> <li>・まとめを行い、今後の課題を見つける。</li> </ul> <p>〔課題〕（復習） 毎日の実習内容を記録に記述する（2～4h） 〔課題〕（予習） 部分的に担当する保育に必要な保育教材、保育技術等の準備をする（4h）</p>						
時間外での学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な保育技術を現場で生かせるように制作物の準備、ピアノの練習等を進めておきましょう。</li> <li>・実習記録をその日の内に記録・整理し、翌日の計画をたてましょう。</li> <li>・部分実習の指導案も計画的に作成し、担当の職員の指導を仰ぎましょう。</li> </ul>						
受講学生へのメッセージ	実習は体力がいります。日頃から健康に留意し、自己管理を怠りなく、十分体調を整えて意欲的に実習に取り組みましょう。質問等は各担当教員のオフィスパワーを活用してください。						

【1C4S206】実習指導 a		幼児教育学科		1年通年		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	名和 孝浩・宮本 絢子					
資格・制限等	保育士資格必修					
実務家教員	宮本：保育士10年、市役所保育主管課5年					
授業方法	講義と演習					
到達目標	知識・理解	実習を円滑に行うために必要な知識や、保育者に求められる知識や役割について理解する。また保育所の一日の流れを理解すると共に、実習施設や保育内容について学ぶ。				
	思考・判断・表現	子ども共に活動しながら、子どもの様子や保育者の援助方法等を観察し、乳幼児理解及び保育理解に努め、その記録を日誌にまとめる。				
	技能	絵本や手遊びなどの基本的な保育技術の修得をする。また発達に応じた保育者の援助方法について理解する。				
	関心・意欲・態度	実習生としてふさわしい態度で実習指導に臨み、積極的に保育に参加して学ぶ意欲や、社会人として求められる適切な態度を身に付ける。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	保育士資格取得を目指す学生として、保育実習の意義や目的を理解し、保育実習に必要な基本的知識や態度を学び、課題を持って実習に取り組めるよう学びます。実習日誌、指導案の考え方や教材準備、保育実技など、実習が充実するよう実習に関連する科目での学びも取り入れて知識や技能を修得します。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	保育ボランティアレポート	10	10	-	-	20
	授業課題・提出物	20	20	20	-	60
	受講態度	-	-	-	20	20
	合計(点)	30	30	20	20	100
評価の特記事項	提出物、実習手続は期限を厳守してください。					
ICT活用	実習指導及び保育実習に関する必要な知識理解度を測るためGoogleフォーム等を活用したミニテストを行う。					
アクティブ・ラーニングの活用	演習等を通じて、互いの意見や保育実践方法に触れることで、自分自身の保育理解や実践方法、保育観を養う。					
課題に対するフィードバック	実習に関する面談や事務手続き・実習記録に関する添削や個別指導を適宜行う。実習事後指導により実習での学修内容をフィードバックする。					
テキスト						
参考書・教材	大垣女子短期大学『実習の手引』 厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション ・実習とは何か ・保育実習の意義について学ぶ ・保育実習までの準備と学び [課題(予習)]保育実習園について調べる。(1h)					
2	実習園について ・実習園を決める ・保育ボランティアに向けての準備 [課題(予習)]実習担当と面談を行い保育実習園を決める(1~2h)					
3	実習内諾について ・実習園の内諾について ・保育ボランティアに向けての準備 [課題(復習)]保育実習及び保育ボランティアの依頼の連絡を行う(2~3h)					
4	保育ボランティアの心得 ・保育ボランティアでの視点について学ぶ ・保育記録(ボランティアレポート)、ボランティア証明書について学ぶ ・個人情報の保護に関して学ぶ ・保育ボランティアに向けての準備 [課題(復習)]保育記録の作成方法をまとめ、理解する(1~2h)					
5	お礼状について ・実習お礼状について学ぶ ・保育ボランティアに向けての準備 [課題(復習)]事前課題としてお礼状を作成し、提出する(1~2h)					
6	実習オリエンテーションについて ・ボランティア/実習オリエンテーションについて学ぶ ・保育者/実習生としてふさわしい身なりや態度、生活について学ぶ ・保育ボランティアに向けての準備 [課題(復習)]保育ボランティアのオリエンテーション依頼について連絡する(1~2h) 実習に関する学修状況に応じて指導担当者との個別面談を行う					
7	保育ボランティア事後指導 ・保育ボランティアを振り返り、自身の課題に気づき、目標を立て見直しをもつ ・実習までの今後の流れや実習条件について確認する [課題(復習)]保育ボランティアの振り返りをまとめる。(1~2h)					
8	保育記録の概要 ・実習日誌の意義について学ぶ ・現場における保育記録の役割と意味について学ぶ [課題(復習)]実習園の概要についてまとめる(1h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
9	保育の実際（1） ・園のデイリープログラムについて学ぶ ・年齢に応じた生活の流れについて学ぶ ・生活の流れの記録作成方法について学ぶ [課題(復習)]生活の流れの記録作成を通して、園の1日の流れについて理解する(1~2h)
10	保育の実際（2） ・子どもと保育者との関りの実際について学ぶ ・子どもの内面理解と保育の分析的視点について学ぶ ・保育のエピソード記録の作成方法について学ぶ [課題(復習)]保育ボランティアを題材とした保育エピソード記録を作成する(1~2h)
11	保育の実際（3） ・保育計画の必要性和実践との関連性について学ぶ ・部分実習の考え方や指導案の作成方法について学ぶ [課題(復習)]部分実習に関する指導案を作成する(1~2h)
12	実習生としての心構え（1） ・実習のめあての作成 ・事務文書（身上書）の作成 ・実習生個人カードの作成 ・個人情報の保護について確認をする ・実習オリエンテーションについて [課題(復習)]身上書を完成させる(1~2h) 実習オリエンテーションの依頼について連絡する
13	実習生としての心構え（2） ・事前指導から事後指導までの流れについて学ぶ ・訪問指導について学ぶ ・実習に向けての準備 [課題(予習)]実習日誌や必要な書類の整理をしておく。(1~2h)
14	まとめ ・実習の目的と内容の確認 ・評価について ・事務連絡 [課題(復習)]実習初日の持ち物の確認や自己紹介の練習をしておく。(2h)
15	実習を終えて反省 ・実習を振り返り、めあての達成など自己評価をする ・実習園からのアドバイスなどをもとに、今後の実習に向けて課題を明確にもつ [課題(復習)]実習振り返り票の記入をする。(1h)
時間外での学修	実習に向けて、他の科目での学修も生かしながら準備を進めていきましょう。時間外での学修については、その都度指示をしますから、確実に課題を進めていきましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	実習には体力が必要です。日頃から体調管理に努めると共に、心身の健康について日頃から意識しましょう。質問等は各教員のオフィスアワーを活用してください。

【1C6F2011】ウインドアンサンブル		幼児教育学科		1年前期		
		2単位	選択必修	演習	60時間	
教員	小林 聡・野々垣 行恵・森岡 佐和					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	大学非常勤講師・20年、演奏家・37年、作編曲家・24年					
授業方法	吹奏楽の合奏を中心にセクションやパート別に演習を行い個々の合奏能力を高めていきます。					
到達目標	知識・理解	時代や様式に合ったスタイルを理解し、それぞれに適切な演奏方法を学ぶ。				
	思考・判断・表現	楽譜に書かれていることから適切な練習方法、表現方法を自ら工夫して判断できる力を養う。				
	技能	合奏の中で他の音を聴く力を高め、音楽の流れを掴む力を磨く。				
	関心・意欲・態度	課題の曲への取り組み方、準備、曲に関する情報を自ら収集する。				
授業内容	様々な時代、様式の音楽を取り上げながらアンサンブルの基本を学び、拍節、和声などの基本を学びます。さらに古楽に触れることで現代の音楽がいかに表現されるべきかを理解し表現力を高めます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	10	10	10	-	30
	受講態度	10	20	30	10	70
	合計(点)	20	30	40	10	100
評価の特記事項	各授業での合奏の取り組みの姿勢、準備、真剣さ、熱意なども含め総合的な評価の対象とします。					
ICT活用	不明なことなどはオンラインでの個人レッスンなどで対応します。学生ポータル					
アクティブ・ラーニングの活用	セクション練習、パート練習などのグループワークおよびディスカッション					
課題に対するフィードバック	達成度を自己評価し、未到達の部分は授業後などに個々の課題に共に取り組みます。					
テキスト						
参考書・教材	楽譜、楽曲、作曲家などに関する資料をその都度配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス 年間予定の説明、合奏授業での注意点、取り組む課題とその目標を理解する。目標：楽しい合奏になるように音の響きをしっかりと掴む。 練習用課題の楽譜の配布、譜読みを行い、曲の全体像を把握するとともに改善すべき点をチェックする。 復習：配られた楽譜の練習。目標：ゆっくりのテンポで一つずつの音の動きを確実に演奏できること。(1h)					
2	スケール、ハーモニーの練習。各調で5度の進行によるハーモニー上でのスケールの練習を行う。目標：音階固有の音を感覚的に捉えること。簡単な即興ができるようになることと、その意味を理解すること。 前回は引き続き練習用の楽曲の合奏 グレゴリオ聖歌を練習し、短旋律での音のつながりを捉える。					
3	スケール、ハーモニーの練習。前回の内容をさらに各調にて練習を行う。 F dur, Es dur など。ルネサンスの音楽世俗的な舞曲（パヴァーヌ、ガイヤルド等）を演奏することで、リズムの強弱を理解する。 復習：F dur, Es dur の音階練習（1h）					
4	スケール、ハーモニーの練習。これまでに練習した調の平行短調の練習。ルネサンスの音楽世俗的な舞曲（ジグ、サラバンド等）を演奏することで、リズムの強弱を理解する。 復習：g moll, d moll, c mollの音階練習（1h）					
5	スケール、ハーモニーの練習。これまでに練習した調でさらに様々な音形をマスターする。ルネサンスのポリフォニーの音楽に触れる。異なる声部の音を聞く力を養う。 身近なポピュラーミュージックへ取り組む。歌心を意識して演奏ができるようにする。 復習：様々な音形の練習（1h）					
6	スケール、ハーモニーの練習。前回までの音階練習にアーティキュレーションを加えた練習を行う。前回は引き続きルネサンスのポリフォニーの音楽に触れる。異なる声部の音を聞く力を養う。 身近なポピュラーミュージックへ取り組む。ベースの動きとコード進行を聞きながら演奏ができるようになる。 復習：様々なアーティキュレーションでの音階練習（1h）					
7	スケール、ハーモニーの練習。G dur, D, dur e moll, h mollで前回までの練習を行う。前回は引き続きルネサンスのポリフォニーの音楽に触れる。異なる声部の音を聞く力を養う。 身近なポピュラーミュージックへ取り組む。ベースとリズムの動きがいかに重要であるかを理解する。 復習：G dur, D, dur e moll, h mollで様々なアーティキュレーションでの音階練習（1h）					
8	スケール、ハーモニーの練習。半音階の練習、3度から5度までのインターバルの練習 前回は引き続きルネサンスのポリフォニーの音楽に触れる。声部間の対話、やりとりができることを目標に合奏を行う。 スタンダードなジャズからリズムの流れを理解する。 復習：半音階の練習（1h）					
9	スケール、ハーモニーの練習。半音階の練習、4度から6度までのインターバルの練習 前回は引き続きルネサンスのポリフォニーの音楽に触れる。声部間の対話、やりとりができることを目標に合奏を行う。 スタンダードなジャズからリズムの流れを理解する。 復習：半音階の練習（1h）					
10	スケール、ハーモニーの練習。半音階の練習、7度から8度までのインターバルの練習 バロックの音楽に触れる。様々な舞曲の様式を理解する。 スタンダードなジャズからリズムの流れを理解する。 復習：半音階の練習（1h）					
11	スケール、ハーモニーの練習。ソノリテを意識した3度の跳躍の練習 前回は引き続きバロックの音楽に触れる。様々な舞曲（サラバンド、ジグ等）の様式を理解する。 スタンダードなジャズからリズムの流れを理解する。 復習：半音階の練習 3度の跳躍の練習（1h）					

内容	
実施回	授業内容・目標
12	スケール、ハーモニーの練習。ソノリテを意識した4度の跳躍の練習 前回は引き続きバロックの音楽に触れる。様々な舞曲（クーラント、アルマンド等）の様式を理解する。 アドリブへのチャレンジ 復習：半音階の練習 4度の跳躍の練習（1h）
13	スケール、ハーモニーの練習。ソノリテを意識した5度の跳躍の練習 前回は引き続きバロックの音楽に触れる。様々な舞曲（ブーレー、メヌエット等）の様式を理解する。 アドリブへのチャレンジ 復習：半音階の練習 5度の跳躍の練習（1h）
14	スケール、ハーモニーの練習。ソノリテを意識した6度の跳躍の練習 前回は引き続きバロックの音楽に触れる。様々な舞曲（ポロネーズ、マズルカ等）の様式を理解する。 アドリブへのチャレンジ 復習：半音階の練習 6度の跳躍の練習（1h）
15	スケール、ハーモニーの練習。ソノリテを意識した7度の跳躍の練習 前回は引き続きバロックの音楽に触れる。バッハの作品の演奏 アドリブへのチャレンジ 復習：半音階の練習 7度の跳躍の練習（1h）
時間外での学修	効率の良い練習でしっかりと基本を身につけてください。そのためにはスケールをしっかりと理解していくことです。【この科目で求める授業外での総学修時間：15H】
受講学生へのメッセージ	合奏では全員が心をひとつに美しい音楽を作っていきます。古楽を知ることは現代の音楽のルーツを知ることに繋がります。一つ一つのハーモニーがさらに大きな広がりとなるよう楽しい合奏を行なっていきます。オフィスアワーは授業の間の休憩時間、授業後とします。

【106F2012】ウインドアンサンブル		幼児教育学科		1年後期			
		2単位	選択必修	演習	60時間		
教員	小林 聡・野々垣 行恵・森岡 佐和						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	大学非常勤講師・20年、演奏家・37年、作編曲家・24年						
授業方法	吹奏楽の合奏を中心にセクションやパート別に演習を行い個々の合奏能力を高めていきます。						
到達目標	知識・理解	時代や様式に合ったスタイルを理解し、それぞれに適切な演奏方法を学ぶ。					
	思考・判断・表現	楽譜に書かれていることから適切な練習方法、表現方法を自ら工夫して判断できる力を養う。					
	技能	合奏の中で他の音を聴く力を高め、音楽の流れを掴む力を磨く。					
	関心・意欲・態度	課題の曲への取り組み方、準備、曲に関する情報を自ら収集する。					
授業内容	様々な時代、様式の音楽を取り上げながらアンサンブルの基本を学び、拍節、和声などの基本を学びます。古典派、ロマンはの様式から近現代の音楽への流れを楽曲の演奏を通じて学修します。様々なポピュラー音楽の違いを探りそれぞれの演奏スタイルを理解します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	10	10	-	30
	受講態度		10	20	30	10	70
	合計(点)		20	30	40	10	100
評価の特記事項	各授業での合奏の取り組みの姿勢、準備、真剣さ、熱意なども含め総合的な評価の対象とします。						
ICT活用	不明なことなどはオンラインでの個人レッスンなどで対応します。学生ポータル						
アクティブ・ラーニングの活用	セクション練習、パート練習などのグループワークおよびディスカッション						
課題に対するフィードバック	達成度を自己評価し、未到達の部分は授業後などに個々の課題に共に取り組みます。						
テキスト	その都度配布します。						
参考書・教材	楽譜、楽曲、作曲家などに関する資料をその都度配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	スケール、ハーモニーの練習。これまでに学修した内容をさらに色々な調へ拡大して練習する。モーツァルトのグランパルティータを演奏し、ハーモニーの美しさを味わいながらそれぞれの楽章の様式を理解していく。 復習：スケールの練習（フラット、シャープ3つまで）(1h)						
2	スケール、ハーモニーの練習。これまでに学修した内容をさらに色々な調へ拡大して練習する。舞曲のリズムを意識し生き生きとした音楽表現の方法を知る。前回は引き続き、モーツァルトのグランパルティータを演奏し、ハーモニーの美しさを味わいながらそれぞれの楽章の様式を理解していく。 復習：スケールの練習（フラット、シャープ4つまで）(1h)						
3	スケール、ハーモニーの練習。これまでに学修した内容をさらに色々な調へ拡大して練習する。舞曲のリズムを意識し生き生きとした音楽表現の方法を知る。前回は引き続き、モーツァルトのグランパルティータを演奏し、ハーモニーの美しさを味わいながらそれぞれの楽章の様式を理解していく。 復習：スケールの練習（フラット、シャープ5つまで）(1h)						
4	スケール、ハーモニーの練習。これまでに学修した内容をさらに色々な調へ拡大して練習する。舞曲のリズムを応用し、一つ一つの音の長さをどのように扱うかを理解する。前回は引き続き、モーツァルトのグランパルティータの仕上げ。ロマン派の音楽に触れる。ロマン派の音楽に息づく精神を感じ取る。 復習：スケールの練習（総合練習）(1h)						
5	スケール、ハーモニーの練習。これまでに学修した内容をさらに色々な調へ拡大して練習する。舞曲のリズムを応用し、前回は引き続き一つ一つの音の長さをどのように扱うかを理解する。自由に音形を創造し、スケール練習のヴァリエーションを広げる。前回は引き続き、ロマン派の音楽に触れる。ロマン派の音楽に息づく精神を感じ取る。 定期演奏会へ向けての練習 復習：スケールの練習（総合練習）(1h)						
6	スケール、ハーモニーの練習。今まで学修してきたことを総合的に組み合わせ、ハーモニーの中でのスケールの動き、変化、抑揚などを理解する。前回は引き続き、ロマン派の音楽に触れる。ロマン派の音楽に息づく精神を感じ取る。比較的新しいジャズ、ポップスへの取り組み。古い音楽とのリズムの違いを知る。 定期演奏会へ向けての練習 復習：スケールの練習（総合練習）(1h)						
7	スケール、ハーモニーの練習。近代の音楽（ドビュッシー、ラヴェル等）音楽に触れ、その色彩感を味わう。比較的新しいジャズ、ポップスへの取り組み。古い音楽とのリズムの違いを知る。 定期演奏会へ向けての練習 復習：スケールの練習（総合練習）(1h)						
8	スケール、ハーモニーの練習。近代の音楽（ドビュッシー、ラヴェル等）音楽に触れ、その色彩感を味わう。ラテンの音楽、南米などの音楽にふれマンボ、ボサなどのリズムを知る。 定期演奏会へ向けての練習 復習：スケールの練習（総合練習）(1h)						
9	スケール、ハーモニーの練習。近代の音楽（ドビュッシー、ラヴェル等）音楽に触れ、その色彩感を味わう。ラテンの音楽、南米などの音楽にふれマンボ、ボサなどのリズムを知る。 定期演奏会へ向けての練習 復習：スケールの練習（総合練習）(1h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
10	スケール、ハーモニーの練習。総合練習 吹奏楽のオリジナル作品その中でもホルスト、グレンジャーなどの歴史のあるものを取り上げる。管楽合奏の響きを体得する。 定期演奏会へ向けての練習 復習：半音階の練習 総合練習(1h)
11	スケール、ハーモニーの練習。総合練習 前回に引き続き、吹奏楽のオリジナル作品その中でもホルスト、グレンジャーなどの歴史のあるものを取り上げる。管楽合奏の響きを体得する。 定期演奏会へ向けての練習 復習：半音階の練習 総合練習(1h)
12	スケール、ハーモニーの練習。総合練習 前回に引き続き、吹奏楽のオリジナル作品その中でもホルスト、グレンジャーなどの歴史のあるものを取り上げる。管楽合奏の響きを体得する。 定期演奏会へ向けての練習 復習：半音階の練習 総合練習(1h)
13	スケール、ハーモニーの練習。総合練習 アメリカの吹奏楽のオリジナルの作品に触れる。マーチから現代の作曲家まで。 定期演奏会へ向けての練習 復習：半音階の練習 総合練習(1h)
14	スケール、ハーモニーの練習。総合練習 前回に引き続き、アメリカの吹奏楽のオリジナルの作品に触れる。マーチから現代の作曲家まで。 定期演奏会へ向けての練習 復習：半音階の練習 総合練習(1h)
15	スケール、ハーモニーの練習。総合練習 前回に引き続き、アメリカの吹奏楽のオリジナルの作品に触れる。マーチから現代の作曲家まで。 定期演奏会へ向けての練習 復習：半音階の練習 総合練習(1h)
時間外での学修	効率の良い練習でしっかりと基本を身につけてください。そのためにはスケールをしっかりと理解していくことです。【この科目で求める授業外での総学修時間：15H】
受講学生へのメッセージ	合奏では全員が心をひとつに美しい音楽を作っていきます。一つ一つのハーモニーがさらに大きな広がりとなるよう楽しい合奏を行なっていきます。オフィスアワーは授業の間の休憩時間、授業後とします。

【1C4F212】ボランティア実践		幼児教育学科		1～3年通年			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	光井 恵子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業方法	活動参加活動及び振り返りの実施						
到達目標	知識・理解	社会の課題に気付き、適切に判断・行動することができる。					
	思考・判断・表現	学びの集積を自覚し、統合し活用することができる。					
	技能	さまざまな価値観に対応できる柔軟性を身につける。					
	関心・意欲・態度	社会に貢献する使命感と責任感をもって、積極的に行動することができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	地域及び学内で行われる社会活動やボランティア活動に参加をし振り返りを行う。主体的・対話的で深い学びを促進する状態での学修を積極的に行い、ICTを活用した双方向型授業や自主学習支援等も必要に応じて実施する。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	提出物(ポートフォリオ)		10	10	10	40	70
	レポート		10	10	10	-	30
	合計(点)		20	20	20	40	100
評価の特記事項	ポートフォリオの提出とレポートで評価する。						
ICT活用	Google Classroomを活用し、社会活動に情報等を配信していく。						
アクティブ・ラーニングの活用	活動への準備や振り返りの中において、グループワークやプレゼンテーションを取り入れていく。						
課題に対するフィードバック	活動後のレポート及び振り返りにより、個別に返答、もしくは全体の場でフィードバックを行う。						
テキスト	『なし』						
参考書・教材	必要に応じて配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	3年間において、下記のいずれかの社会活動及びボランティア活動に30h以上参加をする。かつ、その活動におけるポートフォリオの提出と総合的にまとめたレポートの提出で単位を認定する。 (1)地域や学内で行われる行事や活動への参加 (2)県や市町村、各種団体が主催する行事へのボランティア参加 (3)保育園等をはじめとする施設等での保育技術の発表						
時間外での学修	ボランティア活動の種類によって、事前準備・学修が必要になってきます。詳細については、担当教員より連絡があります。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	社会活動に積極的に参加することによって、大学で学ぶ知識や技術を統合し、主体的・協同的な姿を備えた保育者になることを目的としています。活動によって担当者が異なりますので、オフィスアワーの時間帯については、アカデミックアドバイザーに尋ねてください。						